

学校法人 兵庫医科大学

広報

 兵庫医科大学  兵庫医療大学

vol. **211**
2011年6月号

東日本大震災 兵庫医科大学の救護活動

最近の主な出来事、トピックス

就任挨拶

第105回医師国家試験の結果について

平成23年度科学研究費補助金等の交付内定

平成22年度決算

海外便り／多彩人

特集 東日本大震災 兵庫医科大学の救護活動

平成23年3月11日午後2時46分に関東・東北地方を襲った大震災から3ヶ月が経ちました。被災地では、今もなお大きな傷跡を残し、避難所での生活も続いている状況です。この大震災からの復興に向けて、日本国内はもとより世界中の支援が東北地方に注がれています。

兵庫医科大学病院・ささやま医療センターからも、DMAT(災害派遣医療チーム)・救護医療チームを派遣し、被災地での救護活動を実施しました。また兵庫医療大学からは、NPO等の所属を通じ、心のケアなども実施しました。

「東日本大震災」義援金のご報告

この度の東日本大震災被害に際し、兵庫医科大学教授会から義援金として2,000,000円を6月2日付けで日本赤十字社に送金いたしました。

また、ホームページでもお知らせしております通り、西宮・神戸・篠山キャンパスの教職員から募った義援金3,991,784円及び、兵庫医科大学内に設置した募金箱へ寄せられた義援金96,602円を、それぞれ4月15日、4月28日付で日本赤十字社に送金しました。

災害派遣医療チーム「DMAT」

- 3月11日(金) 夜にDMAT派遣を決定
3月12日(土) 早朝、災害派遣医療チーム(DMAT)を伊丹空港から自衛隊機で派遣(いわて花巻空港着)。岩手県花巻市いわて花巻空港内に特設されたSCU(※)内で医療活動に従事
3月13日(日) 広域医療搬送(航空機による搬送)で重症患者をいわて花巻空港から羽田空港へ搬送
3月14日(月) 帰院し活動報告 ※Staging Care Unit: 広域搬送拠点臨時医療施設

医師◎	久保山 一敏	医師	山田 太平
看護師	山田 裕基	臨床工学技士	冨加見 教男
診療放射線技師	源 貴裕		



救護医療チーム A班



- 3月15日(火) 救護医療チームの派遣を決定(ドクターカー+4輪駆動車の2台、運転手はタクシー 会社に委託)
3月16日(水) 夕刻、福島県へ到着し県内の避難所で医療活動。夜に兵庫県が宮城県へ救護班を派遣する旨の決定通知を受け、急遽、A班を県の先遣隊として、宮城県へ移動を決定
3月17日(木) 午前中、福島県から宮城県庁へ移動し打合せ。午後、石巻市立鹿妻小学校避難所にて救護所を開設して医療活動開始(患者数:41名)
3月18日(金) 避難所にて医療活動(患者数:112名)
3月19日(土) 宮城県庁へ活動報告、必要となる薬剤を要請し、夕刻新潟へ移動
3月20日(日) 朝、新潟空港から伊丹空港へ到着、帰院し活動報告

医師◎	川端 正明	医師	橋本 篤徳
看護師	波々伯部 公美	看護師	清水 真幸
薬剤師	田中 邦佳	事務員	坂田 英敏

救護医療チーム B班

- 3月16日(水) 救護医療チームの後続班(B班)を検討し編成
3月18日(金) 夜、いわて花巻空港から陸路にて仙台に到着しA班と引継ぎを行う
3月19日(土) 避難所である鹿妻小学校にて医療活動(患者数:約120名)
3月20日(日) 避難所にて兵庫県から派遣の県立尼崎病院のチームと合流し活動(患者数:約180名)
3月21日(月) 宮城県庁へ活動報告、必要となる薬剤を要請し帰路へ。同日深夜に帰着

医師◎	美内 雅之	医師	河合 光徳
看護師	窪岡 由佑子	看護師	千島 佳也子
薬剤師	東 剛史	事務員	絹川 武俊



ささやま医療センター支援スタッフ

- 3月22日(火) 午後6時に篠山市役所前出発式を行い、岩手県一関市役所へ向け出発
3月23日(水) 午前8時頃に到着し、一関市長より宮城県気仙沼市での救護活動の要請を受ける。事務員及び同行した篠山市職員は保健センターにて待機、医療従事者は気仙沼市立総合体育館にて翌日の午前9時まで夜間診療に従事
3月24日(木) 午前、気仙沼市街地の被害状況を視察し、医療従事者は前日と同じく夜間診療にあたる。事務員及び篠山市職員は気仙沼市災害対策本部会議に陪席し、気仙沼市長、気仙沼市医師会長と状況等についての面談実施
3月25日(金) 避難所を出発し、一関市長に活動報告を行い帰路へ
3月26日(土) 午前6時30分頃篠山市役所に到着
3月28日(月) 篠山市役所で活動報告会を実施



医師◎	小竹 淳一郎	看護師	田淵 範彦
薬剤師	鈴木 寛	事務員	和田 庄司

救護医療チーム C班



- 3月31日(木) 救護医療チームの後続となるC班を編成
4月4日(月) C班を派遣。山形空港からレンタカーを利用して、午後、鹿妻小学校に到着し避難所にて医療活動(患者数:約100名)
4月5日(火) 避難所にて医療活動(患者数:91名)
4月6日(水) 避難所にて医療活動(患者数:100名)
4月7日(木) 避難所にて医療活動(患者数:85名)同日、午後11時32分最大余震(震度6強)発生
4月8日(金) 午前中に活動を終え帰路につく予定であったが、救護所に県立病院チームの到着が遅れ、終日、避難所にて医療活動(患者数:90名)飛行機の都合で帰れず、山形へ移動
4月9日(土) 夕刻、山形空港から伊丹空港へ到着し帰路へ

医師◎	舩谷 元丸	医師	井上 朋子	看護師	丸山 美津子
看護師	村井 陽一	薬剤師	中山 雅裕	事務員	松本 知之

救護医療チーム D班

- 4月21日(木) 救護医療チームの後続となるD班を編成
5月2日(月) D班を5日間の予定で派遣。仙台空港からレンタカーを利用して、午後、鹿妻小学校避難所にて到着して申し送り後、県立病院チームとともに活動(患者数:26名)
5月3日(火) 避難所(患者数:39名)及び外部の避難所(患者数:10名)にて活動 歯科の医療活動(患者数:約10名)〈口腔衛生指導、義歯調整等〉
5月4日(水) 避難所にて活動(患者数:44名) 歯科の医療活動(患者数:3名)〈智歯周囲炎、歯肉炎等〉
5月5日(木) 避難所にて活動(患者数:30名)、外部の避難所回診 歯科の医療活動(患者数:4名)
5月6日(金) 避難所にて活動(患者数:15名) 歯科の医療活動(患者数:4名) 後続の災害拠点病院チーム(災害医療センター)へ引継ぎ後、帰路へ

医師◎	小瀧 慶長	医師	池田 雄一郎	歯科医師	門井 謙典
看護師	片岡 優実	看護師	小西 聖二	薬剤師	中村 豪志
事務員	元嶋 寛幸				



※各チーム表中◎はリーダー

兵庫医療大学からの支援

■薬学部 桂木 聡子 講師

AMDA (国際医療ボランティア組織)の医療チームの一員として震災直後の3月に岩手県で医療活動を実施。AMDAでの活動終了後、再び5月2日～5日に現地入りし、自分たちが撤退した後の状況を確認することで自らの支援や撤退方法を評価したり、今後継続的な医療支援のあり方をどうすればいいのかなど、各医療専門職者が現地の状況をヒアリングして把握。同時にリラックス＆健康体操、子どもたちとの交流、人と人をつなぐ友情物語プロジェクトなどを通して被災者の心のケアを展開。

■薬学部 前田 真貴子 講師

5月4日～8日に大阪府薬剤師会を通じ、岩手県釜石地区、大槌町地区にて災害処方箋調剤監査、各避難所へお薬配達、避難所での服薬指導、お薬手帳保有確認、残薬・重複投薬有無の確認、血糖自己測定指導などの活動を実施。

■看護学部 大山 末美 助教

5月2日～4日に、NPO法人関西アロマセラピストフォーラムを通じ、アロマセラピストとして活動。岩手県花巻市、大槌町の避難所において、ストレスのセルフケアを行えるようアロマオイルを用いたハンドトリートメント、フットトリートメントなどにより被災者に精神的な癒しを提供。その他、継続的な支援の一つとして、現地の看護師の方々にハンドトリートメントの技術を伝授。



～救護活動から生まれた絆～

宮城県石巻市立鹿妻小学校へ救護に向かった兵庫医科大学病院の救護医療チームに、現地の看護師さんから、2通のメールをいただきました。通信手段もままならない状況下にもかかわらず、感謝の気持ちを伝えたいと、神戸新聞社を介して我々の元へメッセージを届けて下さいました。

以下、ご本人の承諾を得て、その文章を掲載させていただきます。(文中2ヶ所の「※」は文字変換非対応文字で判別できなかったものです。また、救護医療チームのことをDMATと表現されています。)



救護医療チームA班と地元看護師の亀山さん

メール1通目

私は今回の東日本大震災で被災地、石巻市に住む者です。3月11日から3月17日まで宮城県石巻市の鹿妻小学校で地元の人間として微力ながら救護活動に携わりました。

被災した数日間「医療」に関して全く行政の支援は入らず小学校に避難していた他の有資格者の方々と共に急患の対応に追われながらいつか入るであろう支援を待ち続けていました。そんな時兵庫県のDMATの方々が私達の避難所鹿妻小学校に来てくれたんです。私達の力ではどうする事も出来ずこのままでは、目の前で苦しんでいる方々を見殺しにするような形になってしまうのでは…そんな絶望感や無力さに潰されそうになっていた時に一台の救急車に乗り現れた医師看護師や医療スタッフの方々が本当に頼もしく、張り詰めていた不安や緊張感が一瞬にして安堵感に変わったのを今でもしっかりと覚えています。…この人達が来てくれればここに居る医療を必要とする全ての避難者が助※※。(助かることができる?)そう思いました。

支援はDMATとして今日だけじゃなく継続的に入って頂ける、と言う話しを、その方々から聞き避難所の皆さんにそれを伝えた時には広い体育館からは大きな拍手が上がりました。薬を流され、病状が悪化していた方の家族の方小さな子供を抱えた親御さん達は涙し、その知らせを聞いていました。継続的にDMATからの支援が入ると聞きこれまで自分の家族の安否を十分に確認する事も出来なかった私達地元スタッフは避難所をその方々に任せ各自の家や家族の元に帰りました。

今現在も兵庫県のDMATの方々が鹿妻小学校で医療活動を支援して下さいます。あの時のDMATの方々に御礼を伝えたく、ネット等で「兵庫県DMAT川端医師」と、うろ覚えの言葉を入力し今日まで探し続け、先程、貴社の記事からあの時のスタッフの活動の様子が掲載された内容の記事を見つけ、失礼かとは思いましたが貴社にメールさせて頂きました。もし差し支えなければ、あの時、多くの避難者の不安を一瞬にして消して下さった川端医師を始めとするスタッフの詳しい連絡先を教えて頂く事は出来ないでしょうか？

今回の震災においては兵庫県の方々からは本当に迅速で、適切な支援そして長期に渡る活動が繰り広げられていると実感しています。とても遠く離れた場所から沢山の声や想い様々な形での支援を届けて頂いている事に個人としてだけでなく、地域の住民がとても感謝しています。今回のメールの件でも貴社からのお力添えを頂ければ、と願っています。宜しくお願いいたします。

・本文中「貴社」=神戸新聞社

メール2通目

先日メールさせて頂きました宮城県の亀山です。石崎様今回の迅速なご対応本当にありがとうございます。私共の地域は殆どの方が津波で家を流されるか浸水により自宅のPCを始めとする、殆どの電化製品が使用出来ず携帯での検索に限界を感じていた時だったので貴社を通してあの時のDMATに辿り着けた事に深く感謝すると同時に大変嬉しく感じています。今あの時一緒に医療活動をしたメンバー(DMATの活動に比べたらただの素人集団ですが…)とも連絡が取れ川端医師に辿りつけそう、と言う知らせに皆が喜んでいました。

私達被災地域はまだ皆さんからの助けや励ましがなしには前に進む事も出来ない様な状態ですが兵庫県を始めとする、沢山の方々が背中を押してくれている事に力を頂き少しずつ歩んでいます。兵庫県が私達にとって最大の指標でありこんな時はどうしたんだろう、兵庫県はどうやって現在の様な力強い復興※※(復興を果たし?)したんだろう、と手本にさせて頂いていました。私自身も一度も訪れた事がない地ですが兵庫を、今はすごく身近に感じています。いつか行ってみたいですね。

川端医師へは私共の方からも手紙だけと言う形にはなるかも知れませんが改めて御礼をしたい、と考えていますがもしお手数でなければ先日のメールを転送して頂いても宜しいでしょうか。また宜しければ、あの時両親が見つからず喘息の治療をして頂いた男の子はおばあちゃんが迎えに来てくれ、4月からおばあちゃんの元で元気に小学校へ入学した事、今は喘息も落ち着いた事、最近ではDMATの様なお医者さんになりたい、と話している事を、川端医師にお伝え願えれば、と思います。

今回の石崎様を始めとする貴社からのお力添えをこれからもずっと忘れずに一日でも早い復興へ向け頑張って進みたいと思います。本当にありがとうございました。

・本文中「石崎様」=神戸新聞記者



「A班の皆さんへ」と、亀山さんとそのお子さん・お友達が協力してワッペンを作り、D班に託していただきました



H.23.5.4 神戸新聞
この記事の無断転載を禁じます。

4月

April

	■学校法人兵庫医科大学	入職式	➡
1	■兵庫医科大学	大学院入学式	210号掲載
2	■兵庫医科大学	白衣授与式	P6
4	■兵庫医科大学	入学式	210号掲載
5	■兵庫医療大学	入学式	210号掲載
		大学院入学式	210号掲載
6	■兵庫医療大学	兵庫医科大学病院・ささやま医療センター 合同病院説明会（リハ学部対象）	
13	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「遺伝性大腸癌の話」 （下部消化管外科 富田 尚裕 主任教授）	
15・18	■兵庫医療大学	社会人スキル対策講座（看護学部4年対象）	
19	■兵庫医科大学病院	事務職員対象講演会「組織とは何か」 （病院顧問 正木 義博氏）	P16
21	■兵庫医科大学	大学院学位授与式	P14
27	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「あなたの肺は大丈夫？あな たの肺年齢は？」 （内科 呼吸器・RCU科 田端 千春 准教授）	



4/1

■学校法人兵庫医科大学
入職式

平成記念会館において平成23年度入職式が行われました。臨床研修医、看護師、事務職員など西宮キャンパスでの採用者が一堂に会して辞令の交付を受けました。入職式に引き続きオリエンテーションが行われました。



4/2

■兵庫医科大学
平成23年度白衣授与式

3-3講義室において新5年生を対象に行われ、学生たちは校章と氏名が刺繍された白衣を臨床の教授陣から授与されました。教授と固い握手を交わして激励を受け、臨床実習を前に気持ちを新たにしました。



5/12

■兵庫医療大学
第4回欧州研修（2011年3月14日～24日）報告会

M106講義室において、第4回欧州研修の報告会が開催されました。初めて看護学部・リハビリテーション学部合同で研修が実施され、現地では、病院、高齢者センター、幼稚園、大学等8施設を見学しました。報告会では、デンマークの医療制度について事前学習で調べたことや、現地での体験が報告され、学生たちは「沢山の人々と出会い、多様な文化や価値観に触れることにより、自らの人間性が豊かになりました」という感想を述べていました。海外の医療・福祉を目の当たりにし、今後の学習意欲が刺激され、貴重な経験となったようです。

5月

May

7	■兵庫医療大学	第二回学校法人兵庫医科大学連携病院の会 合同病院説明会	P21
12	■兵庫医科大学病院	看護の日記念行事	➡
	■兵庫医療大学	第4回欧州研修（2011年3月14日～24日） 報告会	P6
18	■兵庫医科大学病院	市民健康講座「新しい大動脈瘤術ー体に やさしいステントグラフト内挿術ー」 （心臓血管外科 田中 宏衛 助教）	
	■兵庫医療大学	仕事研究セミナー「私の仕事」 ～卒業生からのメッセージ～	P6
21	■兵庫医療大学	「ボーアイ4大学による連携事業」公開講 座「健康ってなんだろう？～健康について 一緒に考えませんか～」(薬学部 桂木 聡子 講師)	
27	■兵庫医療大学	平成23年度 兵庫医療大学 入学生・在学生 特別奨学生証授与式	P6



ふれあい看護体験

「看護の日」記念コンサート

5/12

■兵庫医科大学病院
看護の日記念行事

ふれあい看護体験

応募のあった方5名が、10-4～10-8病棟で配膳や清拭、氷枕の交換などを体験しました。参加した女子高校生は「患者さんへの気遣いが思っていたより大変だった」「将来看護師になりたいので、実際に看護師の働く姿を間近で見ることができ、将来のイメージが湧きました」などと感想を述べていました。

「看護の日」記念コンサート

即席のコンサート会場となった1号館1階ロビーに入院・外来患者さんやそのご家族、関係者など多くの方が集まり、アンサンブル・ルタオ(LUTAO)によるギターやマンドリンの演奏を楽しみました。“上を向いて歩こう”などの曲を演奏に合わせて合唱したりと、会場は和やかな雰囲気になりました。



5/18

■兵庫医療大学
仕事研究セミナー「私の仕事」
～卒業生からのメッセージ～

キャリアデザインセンター主催で、『仕事研究セミナー「私の仕事」～卒業生からのメッセージ～』が開催されました。昨年度、兵庫医療大学理学療法学科を卒業し、現在京都府宇治市内の病院で理学療法士をされている奥田泰浩さんをお迎えして、この仕事を目指したきっかけ、仕事のやりがい、学生時代の過ごし方などをお話していただきました。在学生80名が参加し、1期生の先輩の話を熱心に聞きました。身近な存在である先輩が、卒業後やりがいをもって仕事に取り組む姿に、在学生はますます今後の学習へのモチベーションを向上させたようでした。



5/27

■兵庫医療大学
平成23年度兵庫医療大学
入学生・在学生特別奨学生証授与式

強い意欲をもって学習に励む学生の努力に応えるため、今年度から新たに導入した「入学生・在学生特別奨学金」制度において、薬学部の3名が採用されました。記念すべき初めての奨学生に対して、松田学長から学長室において入学生・在学生特別奨学生証が授与され、松田学長、東学部長から学生へ激励の言葉が送られました。

就任挨拶



副学長(教育担当)就任挨拶 生化学 鈴木 敬一郎 〈4月1日就任〉

この度、副学長(教育担当)を拝命し、責務の重大さに身の引き締まる思いです。教務部長、学生部長と連携し、両委員会の決定を推進することや学長を補佐することは当然のことですが、取り組むべき課題は以下のことを考えています。①中・長期的なカリキュラムならびに教育体制の立案、②教職員向けFDの充実、③他大学や学外施設・病院との連携、④医学教育学会・共用試験実施機構・省庁等への協力、などです。

医学部は定員増や地域枠など新たな課題を抱えながら、国際的な基準にも合致した教育を行う必要に迫られています。これまで医学教育センター長として「凜として優しい」教育を目指しておりましたが、やればやるほど教育の奥深さと自身の未熟さを感じるばかりです。

微力ながら本学教育の充実・発展に寄与したいと決意を新たにしておりますので、今後とも皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



副学長(研究担当)就任挨拶 病理学 寺田 信行 〈4月1日就任〉

本年4月から副学長(研究担当)に就任しました。よろしくお願い致します。研究は、着想のみでは不十分で、着想を実証し、結果を公表する技能が必要です。本学の卒業生の殆どは臨床医となり、医学研究者となる者は僅かです。しかし、臨床医であれば、疾患に関する知識や診断、治療技術の進歩に貢献できることを着想する機会は、必ずあると思います。

そのような時、僅かな期間でも研究を行い、研究技能を習得した経験があれば、着想を十分な根拠を持って公表することができ、医学、医療の進歩に貢献することができます。従って、臨床医になるにしても研究の経験を持つことは重要です。もちろん、研究を指導できる医学研究者が育つことも重要です。

研究を行うことの重要性の認識を広め、研究を志向する機運を高めるとともに、研究環境を整備することにより研究を活性化し、優れた臨床医、医学研究者の育成に貢献したいと考えております。



副学長(周年事業担当)就任挨拶 内科学 山本 徹也 〈4月1日就任〉

この度、平成23年4月1日付で兵庫医科大学副学長に就任させて頂きました。昭和49年、兵庫医科大学開校2年目に旧第3内科に入局し、以来38年間、時代の要請に応えるべく発展し続ける大学を目の当たりにしてまいりました。今日があるのは歴代理事長、学長はじめ本学職員全員の尽力のみならず、同窓会や後援会の皆様のご理解とご協力の賜と深く感謝致しております。

しかしながら、昨今の社会環境の変化はすさまじく、本学におきましても教育、研究、診療、および経営面でも尚一層の改革が急務となっておりま。来年は丁度創立40周年に当たり、中西学長のもと様々な記念事業が企画されております。これらの事業を通し、本学が更なる発展を遂げるべく、私共も微力ながら精一杯職務に励む所存でおります。

今後とも、何卒皆様の温かいご支援、ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



教務部長就任挨拶 環境予防医学 若林 一郎 〈4月1日就任〉

平成23年4月より教務部長を務めることになりました。教務委員会の主な任務はカリキュラム編成および成績判定であり、医学教育センターと協力して学生教育の充実を図ることを目的としています。

最近本学では高い医師国家試験合格者を維持しています。これは鈴木医学教育センター長および野口前教務部長のご尽力により、徹底した国家試験対策および厳密な進級・卒業判定が行われたためです。医師国家試験が競争試験化している現実を踏まえ、今後も油断することなく本学合格率のさらなる上昇を目指したいと思。また、最近本学ではカリキュラム改編が実施されましたが、今後も我が国の変革する医学教育に素早く対応したカリキュラムを編成していきたいと考えております。

中西学長ご指導のもと、教務委員会の先生方のご協力を賜り、学生教育のより一層の充実のため微力ながら努力する所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。



先端医学研究所長就任挨拶 先端医学研究所 善本 知広 〈4月1日就任〉

このたび、第4代先端医学研究所長を拝命いたしました。就任にあたり、皆様に先端医学研究所を紹介させていただきます。

先端医学研究所は、本学で発見されました免疫を調節する因子、インターロイキン18(IL-18)の先端的研究を目指して、平成8年に当時の文部省の支援を受け、生体防御システム研究部門として発足したのが始まりです。私も微力ながら研究部門の設立に参加いたしました。平成9年に現在の先端医学研究所が設立され、その後新たな研究部門が加わり、変遷を重ね、現在の「アレルギー疾患研究部門」以外に「細胞移植部門」、「細胞・遺伝子治療部門」と「神経再生研究部門」の4部門から構成されています。”Organizing Scientists to Reveal the Secrets of Nature for the Good of Man”を研究所の理念として、臨床と基礎の融合を目指した世界トップレベルの研究活動をしています。

今後とも先端医学研究所へのご支援を賜りますようお願い申し上げます。



主任教授就任挨拶 生物学 池田 啓子 〈4月1日就任〉

このたび、兵庫医科大学生物学主任教授を拝命いたしました。兵庫医科大学の一員であることに喜びを感じるとともに、身の引き締まる思いです。

本学で私が担当する生物学は、兵庫医科大学に入学したばかりの学生が最初に触れる大学教育の一つであり、その後6年間に必要な「自ら勉強する習慣」を学生に作ってもらうための極めて重要な役割を果たしています。同時に医学の基礎をなす生命科学の偉大さに触れてもらう機会でもあります。

20世紀後半に生物学・生命科学は飛躍的な発展を遂げ、細胞生物学・遺伝学・発生生物学・生態学等のさまざまな専門分野に細分化され、生命現象に関する知識は日々蓄積されつつあります。私自身の臨床医時代の経験と生命科学研究者としての経験すべてを傾けて、兵庫医大学生に語りかける講義をし、一人でも多くの学生に生命科学の尽きぬ面白さを実感してもらいたいと思っております。

皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

教授就任



麻酔科学 多田羅 恒雄 〈2月1日就任〉

昭和61年 3月 慶應義塾大学医学部卒業
6月 慶應義塾大学医学部附属病院麻酔科 研修医
昭和63年 6月 慶應義塾大学医学部附属病院麻酔科 医員
平成元年 8月 米国ユタ大学医学部麻酔科 研究員
平成3年 6月 慶應義塾大学医学部付属病院麻酔科 医員
10月 静岡赤十字病院麻酔科 医員
平成5年 1月 川崎市立川崎病院麻酔科 医員
平成6年 1月 慶應義塾大学医学部附属病院麻酔科学教室 助手
平成7年 1月 済生会神奈川県病院麻酔科 医員
平成8年 1月 済生会神奈川県病院麻酔科 医長
平成10年 7月 杏林大学医学部麻酔科学教室 講師
平成16年 4月 兵庫医科大学麻酔科学講座 講師
平成19年 11月 兵庫医科大学麻酔科学講座 准教授
平成21年 4月 兵庫医科大学病院麻酔科 診療部長



地域総合医療学 下村 壯治 〈4月1日就任〉

昭和57年 3月 兵庫医科大学卒業
6月 兵庫医科大学病院第三内科 臨床研修医
昭和59年 6月 兵庫医科大学病院第三内科 医員
昭和60年 1月 西宮市立中央病院内科 医師
1月 兵庫医科大学内科学第3講座研究生入学
昭和62年 1月 兵庫医科大学病院第三内科 医員
平成2年 7月 兵庫医科大学内科学第3講座研究生入学
7月 葛城病院内科 医師
平成7年 9月 兵庫医科大学病院第三内科 医員
平成8年 4月 兵庫医科大学内科学第3講座 助手
平成13年 4月 兵庫医科大学総合内科学講座 助手
平成14年 4月 兵庫医科大学総合内科学講座肝胆脾科 助手(名称変更)
平成15年 8月 兵庫医科大学総合内科学肝胆脾科 講師
平成16年 12月 兵庫医科大学内科学肝胆脾科 講師(名称変更)
平成22年 12月 兵庫医科大学内科学肝胆脾科 准教授



外科学 飯室 勇二 〈4月1日就任〉

昭和61年 3月 山梨医科大学医学部卒業
平成2年 3月 山梨医科大学大学院修了
4月 宮川嚮形病院外科 医員
6月 山梨医科大学医学部第一外科 医員
平成3年 6月 宮川嚮形病院外科 医員
平成4年 2月 山梨医科大学医学部第一外科 医員
4月 宮川嚮形病院外科 医員
7月 社会保険山梨病院外科 医員
平成5年 6月 山梨医科大学医学部第一外科 助手
平成6年 6月 アメリカ合衆国ノースカロライナ大学薬理学教室及び内科学教室留学(ポスト・ドクトル・フェロー)
平成9年 2月 山梨医科大学医学部第一外科 助手復職
3月 山梨医科大学医学部第一外科 研究生
4月 京都大学医学部付属病院第二外科 勤務医員
平成11年 4月 京都大学医学研究科消化器外科科学講座 助手
平成13年 5月 兵庫医科大学第一外科 講師
平成14年 2月 兵庫医科大学第一外科 助教授
平成20年 9月 兵庫医科大学外科学肝・胆・膵外科 准教授



地域総合医療学 川端 正明 〈4月1日就任〉

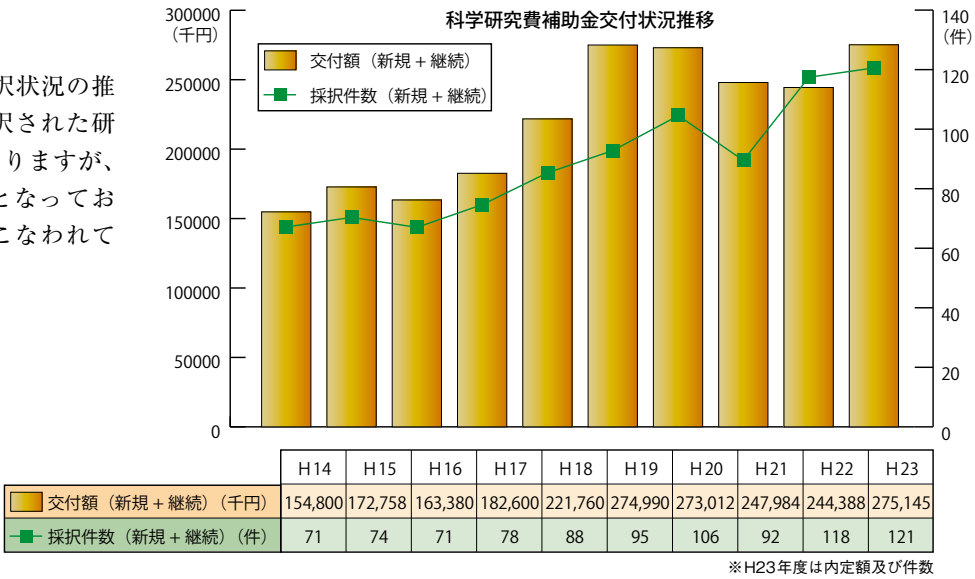
昭和59年 3月 国立ソウル大学医学部卒業
5月 大阪大学医学部第一内科教室研究補助(心臓研究室)
昭和60年 7月 市立貝塚病院内科 医員
昭和62年 7月 大阪警察病院心臓センター循環器内科 医員
平成1年 7月 市立貝塚病院内科 医長
平成12年 10月 市立貝塚病院内科 部長(循環器担当)
平成17年 4月 兵庫医科大学内科学循環器内科 講師
平成23年 3月 兵庫医科大学内科学循環器内科 准教授

平成２３年度科学研究費補助金交付内定一覧

平成２３年度科研費（１２１件　総額２７５，１４５千円（うち直接経費２１１，６５０千円、間接経費６３，４９５千円））の交付が下記のとおり内定されました。

なお、昨年度の交付額は１１８件　総額２４４，３８８千円（うち直接経費１９４，４９９千円、間接経費４９，８８９千円）でした。

過去１０年間の科研費採択状況の推移は右表のとおりです。採択された研究内容により金額の変動はありますが、件数は全般的に右肩上がりとなっており、年々有意義な研究がおこなわれています。



（単位：千円）

所 属	研究代表者	研 究 課 題 名	交付内定額	
			直接経費	間接経費
基盤研究（Ａ）				
免疫学・医動物学	中西 憲司	顆粒白血球の寄生虫感染宿主応答に及ぼす影響の解明	15,800	4,740
公衆衛生学	島 正之	出生コーホートを用いた妊娠中の大気汚染が妊娠及び出生児に及ぼす影響の解明	12,600	3,780
基盤研究（Ｂ）				
超音波センター	飯島 尋子	超音波医学を駆使した慢性肝炎および非アルコール性脂肪性肝炎の非侵襲的診断法の開発	3,400	1,020
環境予防医学	若林 一郎	高齢者における飲酒習慣と動脈硬化性疾患のリスクとの関連性に関する疫学研究	2,600	780
先端研（アレルギー疾患研究部門）	善本 知広	好塩基球によるTh2細胞の誘導とアレルギー病態形成に関する研究	3,000	900
泌尿器科学	兼松 明弘	日内排尿リズム形成の分子生物学的メカニズムに関する研究	3,600	1,080
歯科口腔外科学	浦出 雅裕	口腔癌幹細胞の分離・同定と癌幹細胞特異的治療法の開発	3,400	1,020
解剖学（神経科学部門）	野口 光一	神経障害性疼痛に関わる脊髄ニューロン・グリアの分子形態学的基盤	3,800	1,140
外科学（肝・胆・膵外科）	藤元 治朗	外科手術による癒着・線維形成過程の分子機構解析と制御法開発と探索医療への展望	4,900	1,470
遺伝学	振津 かつみ	劣化ウラン兵器の環境と健康への影響評価の現状と国際的規制に関する調査研究	2,100	630
リハビリテーション医学	道免 和久	脳卒中片麻痺上肢集中訓練C1療法の神経基盤研究（拡散テンソル画像による）	5,600	1,680
病理学（病院病理部門）	廣田 誠一	多様なレセプターチロシキナーゼ遺伝子変異の消化管間質腫瘍の病態への影響	5,600	1,680
病原微生物学	筒井 ひろ子	インターロイキン33を標的としたヘリコバクターピロリ慢性胃病変の予防	6,400	1,920
基盤研究（Ｃ）				
先端研（神経再生研究部門）	松山 知弘	脳梗塞に対する細胞治療が幹細胞ニッチにおよぼす影響の検討	800	240
公衆衛生学	唐 寧	燃焼由来多環芳香族炭化水素類の長距離輸送と活性化反応	900	270
生理学（生体機能部門）	荒田 晶子	発声－呼吸モードスイッチングにおける神経機構の解明	1,000	300
病理学（分子病理部門）	鳥井 郁子	アレルギー性腸疾患の制圧に向けた免疫寛容機構の解明：制御分子とその産生細胞の同定	1,000	300
生物学	柏村 信一郎	感染性ショックの誘導に関わるサイトカイン及び遺伝子の多項目解析	500	150
外科学（上部消化管外科）	菊池 正二郎	新規癌細胞分泌タンパク質による早期大腸癌血清診断法の確立	900	270
内科学（上部消化管科）	田中 淳二	ラット胃伸展刺激に伴う内臓痛とTRPA1チャネル活性化との関連	900	270
内科学（上部消化管科）	三輪 洋人	腹部症状発現の分子メカニズムの解明－神経炎症と粘膜透過症の食道症状への関わり－	900	270
内科学（肝・胆・膵科）	榎本 平之	肝癌由来増殖因子の発現制御およびシグナル伝達調節による肝癌増殖制御法の開発	700	210
内科学（循環器内科）	辻野 健	メタボリックシンドロームにおける鉄代謝異常の機序とそれに基づく新規治療法の開発	700	210

（単位：千円）

所 属	研究代表者	研 究 課 題 名	交付内定額	
			直接経費	間接経費
内科学(腎・透析科)	野々口 博史	糖尿病性腎症における抗利尿ホルモンV1a型受容体の役割と新たな治療法開発	1,100	330
内科学(血液内科)	小川 啓恭	ヒト白血球抗原半合致造血幹細胞移植療法の安全性確立に向けての研究	1,000	300
放射線医学	石蔵 礼一	新生児の脳発達に伴う脳回及び容積の測定と虚血性脳疾患での評価	500	150
放射線医学	上紺屋 憲彦	放射線直腸粘膜障害に対する予防と治療－直腸挿入垂鉛製剤の設計と評価－	600	180
外科学(肝・胆・膵外科)	吉田 康彦	転写因子NF-κB抑制による大腸癌放射線感受性増強効果と非癌部腸管保護作用の検討	900	270
外科学(肝・胆・膵外科)	平野 公通	胆管細胞癌に対する新生血管・リンパ管および腫瘍内間質を標的とした分子治療研究	1,000	300
整形外科科学	橘 俊哉	坐骨神経痛発現メカニズムにおける脊髄グリア細胞活性化の寄与	900	270
中央手術部	上農 喜朗	麻酔薬相互作用の神経ネットワーク並行回路近似による解析	900	270
歯科口腔外科学	長谷川 誠実	歯痛の情動記憶メカニズムの解明	800	240
歯科口腔外科学	高岡 一樹	腺様囊胞癌血行性転移機構における一酸化窒素合成酵素の関与と転移抑制の検討	1,100	330
解剖学(神経科学部門)	福岡 哲男	GDNFの神経因性疼痛に対する鎮痛メカニズムの解明；Nav.Kvとの関連	1,100	330
ペインクリニック部	神原 政仁	末梢神経損傷後のニューロパシックペインとサイトカインネットワークの関連	1,100	330
生物学	塚本 吉彦	網膜神経細胞の3次元再構築による形態的分類とシナプス結合の解析	100	30
超音波センター	田中 弘教	造影超音波による進行肝癌に対する分子標的薬の早期効果判定法の開発	1,000	300
解剖学(細胞生物部門)	前田 誠司	腎ネフロンに作用するアセチルコリンの分泌経路に関する研究	800	240
遺伝学	久保 秀司	腫瘍溶解アデノウイルスを用いた悪性中皮腫に対する新規治療法の開発	900	270
免疫学・医動物学	松本 真琴	糞線虫排除におけるIgEの役割に関する研究	1,100	330
遺伝学	吉川 良恵	抜去した毛包由来幹細胞によるオーダーメイド医療のための基礎研究	1,000	300
環境予防医学	武田 裕司	末梢血全血解析法による血小板・白血球機能由来の動脈硬化指標の確立	900	270
公衆衛生学	谷村 晋	大気汚染の健康影響評価のための曝露推計モデルの開発：兵庫県学童コホートへの適用	1,500	450
環境予防医学	丸茂 幹雄	飲酒の抗血栓作用に関連する血小板TRPチャネルの分子機構	500	150
法医学	西尾 元	不整脈源性右室心筋症原因遺伝子変異は胸腺リンパ体質の分子モデルか	1,100	330
内科学(上部消化管科)	大島 忠之	胃癌の発生と進展におけるタイト結合蛋白クローディンの機能解析	900	270
内科学(上部消化管科)	渡 二郎	日米共同研究によるバレット食道の発生ならびに抑制機序の解明	1,100	330
内科学(肝・胆・膵科)	西口 修平	ウイルス消失例からの肝癌発症の臨床病態と発がん予測因子の同定	1,200	360
臨床検査医学	小柴 賢洋	アデノシンデアミナーゼ阻害剤による関節リウマチの新規治療開発	700	210
精神科神経科学	松永 寿人	強迫性障害の新規分類基準の生物学的妥当性、臨床的有用性に関する検討	700	210
放射線医学	廣田 省三	胃静脈瘤に対するB-RTO後の肝機能改善のメカニズムの解明	700	210
外科学(肝・胆・膵外科)	杉本 貴昭	肝静脈還流障害による肝再生病態の分子解析と治療アプローチに関する研究	800	240
外科学(下部消化管外科)	久野 隆史	散在性大腸癌発生における塩基除去修復遺伝子MYHの関与の解明と臨床応用への展開	1,000	300
外科学(肝・胆・膵外科)	飯室 勇二	肝組織の恒常維持・修復機構における中心的存在としての肝星細胞の役割解明とその応用	1,100	330
整形外科科学	越谷 博之	骨肉腫の化学療法と免疫療法の有効性向上に関する研究	900	270
泌尿器科学	山本 新吾	動物モデルを使った尿路病原性大腸菌のキノロン耐性誘導機序の解明	1,100	330
歯科口腔外科学	森寺 邦康	癌幹細胞と微小環境(ニッチ)および間質線維芽細胞(CAF)の相互作用に関する研究	1,100	330
歯科口腔外科学	野口 一馬	in vitro発がんモデルを用いた口腔がん発生機構の解析	1,300	390
生物学	池田 啓子	ブラコードと神経堤の細胞間相互作用を司る分子基盤の解明	2,200	660
解剖学(神経科学部門)	山中 博樹	末梢神経損傷時の痛覚伝達経路でのL1-CAMのリン酸化と可塑的变化に対する影響	1,700	510
生理学(生体情報部門)	矢口 貴博	PDGF- α 誘導中皮腫細胞遊走メカニズムの解明および新規治療法の開発	1,500	450
生理学(生体機能部門)	平田 豊	TRPチャネル発現グリア細胞が担う中枢性呼吸調節機構の解明	1,300	390
薬理学	竹村 基彦	拘束水浸ストレスによる胃粘膜ヒスタミンの代謝変動	3,100	930
病理学(分子病理部門)	辻村 亨	悪性胸腺中皮腫の進展・浸潤メカニズムの解析：病理診断への応用と新規治療法の開発	1,700	510
病理学(機能病理部門)	山田 直子	インターロイキン18関連がん転移抑制因子の同定とその機構の解明	1,700	510
内科学(上部消化管科)	福井 広一	Reg蛋白の消化管粘膜保護作用に関する研究	2,600	780
内科学(呼吸器・RCU科)	田端 千春	肺線維症などの難治性肺疾患に対する新規治療開発	1,500	450
内科学(神経・脳卒中科)	木村 卓	筋強直性ジストロフィー症における中枢神経スプライシング異常の分子機序の解明	3,100	930
生化学	藤原 範子	新規モノクローナル抗体を用いた変異SOD1の構造解析とALL免疫療法の開発	1,400	420
内科学(内分泌・代謝科)	小山 英則	肥満・動脈硬化における終末糖化産物受容体を介した炎症シグナルの意義	1,400	420

所 属	研究代表者	研 究 課 題 名	交付内定額	
			直接経費	間接経費
病原微生物学	林 周平(郷平)	ヒトヘルペスウイルス6増殖におけるS100A8／S100A9の役割	1,500	450
皮膚科学	山西 清文	魚鱗癬様紅皮症の病態に関する研究	1,500	450
外科学(上部消化管外科)	笹子 三津留	上皮間葉系細胞分化転換関連分子を標的とする新しい胃がん腹膜転移治療法の開発	1,500	450
外科学(下部消化管外科)	山野 智基	ケモカインCCL21と腫瘍溶解アデノウイルスを用いた新しい癌ワクチン療法の開発	1,500	450
外科学(下部消化管外科)	松原 長秀	炎症を母地とする非定型消化器癌の発癌機構の解明と早期診断バイオマーカの開発	1,700	510
外科学(下部消化管外科)	富田 尚裕	スプライシング因子阻害剤とヒストン脱アセチル化酵素阻害剤の併用効果の検討	1,400	420
外科学(肝・胆・膵外科)	宇山 直樹	Plakin Family蛋白発現制御による肝内胆管癌治療戦略	1,300	390
呼吸器外科学	松本 成司	悪性胸膜中皮腫における抗IL-6受容体抗体療法の開発	2,000	600
脳神経外科学	泉本 修一	WT1免疫療法における脳局所の抑制系・促進系免疫機序の解明と抑制克服法の開発	1,800	540
先端研(細胞・遺伝子治療部門)	後藤 章暢	難治性膀胱癌に対するキメラ型細胞融解性ベクターを用いた新規治療法の開発	1,500	450
産科婦人科学	小森 慎二	新鮮及び凍結卵巣由来の未熟卵の無血清培地による体外培養法確立を目指した基礎的検討	2,200	660
眼科学	三村 治	甲状腺眼症の病態解明と新規治療法の確立	1,600	480
病理学(機能病理部門)	大山 秀樹	インターロイキン22を用いた新しい歯周組織再生療法開発のための基礎的研究	1,400	420
挑戦的萌芽研究				
先端研(アレルギー疾患研究部門)	善本 知広	上皮細胞を起点にしたアレルギー性鼻炎発症機序の解明	1,300	390
病原微生物学	筒井 ひろ子	免疫・炎症応答が惹起する肝局所DICとそれを介した劇症肝炎の解析	1,300	390
生理学(生体機能部門)	越久 仁敬	グリア細胞が呼吸をトリガーする—新パラダイムの検証	2,200	660
医学教育学	成瀬 均	スキルスラボを用いた多職種医療人に対する医療安全教育と実技試験	1,600	480
外科(肝・胆・膵外科)	藤元 治朗	仮説「血液凝固・IFNγ・PAI-1は肝線維化・発癌機構を制御する」の提唱と検証	1,500	450
救急・災害医学	小谷 穰治	高度侵襲下のインスリン抵抗性に関するIL-18の影響と雌雄差の検討	1,400	420
研究活動スタート支援				
物理学	寺澤 大樹	2層独立コンタクト量子ホール素子による層間コヒーレンスの検証	1,500	450
先端研(アレルギー疾患研究部門)	松下 一史	上皮細胞によるアレルギー疾患の誘導機序の解明	1,130	339
歯科口腔外科学	頭司 雄介	In vitro口腔発がん可視化モデルを用いた浸潤様式・転移機序の解析	1,020	306
新学術領域研究				
解剖学(神経科学部門)	野口 光一	脂質メディエーター特にロイコトリエンによる疼痛伝達制御機構	3,100	930
若手研究(B)				
先端研(神経再生研究部門)	中込 隆之	血管ニッチの有無による脳傷害誘導性神経幹細胞の移植効果の検討	1,100	330
解剖学(神経科学部門)	小林 希実子	末梢神経損傷後に増加するロイコトリエンの神経因性疼痛への関与	1,400	420
先端研(神経再生研究部門)	土江 伸誓	マウスの水迷路学習場面を応用した新しいうつ動物モデル	800	240
解剖学(神経科学部門)	三好 歓	神経障害性疼痛発症におけるcaspase-1を介したサイトカイン活性化機構の解明	1,200	360
生理学(生体機能部門)	増宮 晴子	心房細動と睡眠時無呼吸：呼吸リズムからの心房細動発生機序の検証	800	240
病理学(分子病理部門)	佐藤 鮎子	悪性中皮腫の悪性度および発育進展に関与する細胞接着分子の解析	1,000	300
免疫学・医動物学	中平 雅清	Super Th1細胞の新たな機能に関する研究	1,200	360
生化学	江口 裕伸	糖尿病マーカーとしてのIL-18の有用性評価と新規バイオマーカの探索	1,300	390
内科学(循環器内科)	藤井 健一	糖尿病患者に対する血糖管理強化療法が冠動脈不安定粥腫の安定化に与える効果の検討	1,300	390
内科学(循環器内科)	内藤 由朗	貧血合併心不全における分子機構解明と新規治療への応用	1,400	420
皮膚科学	今井 康友	炎症性皮膚疾患におけるIL-33の免疫学的解析	900	270
呼吸器外科学	橋本 昌樹	大腸癌肺転移切除例における末梢血液中循環腫瘍細胞および内皮細胞の臨床的意義の検討	1,100	330
耳鼻咽喉科学	都築 建三	メントールとカブサイシンが鼻炎、副鼻腔炎の病態生理に及ぼす影響	500	150
形成外科学	藤原 敏宏	閉鎖陰圧療法における神経の役割に関する研究及び臨床への応用	1,000	300
内科学(リウマチ・膠原病科)	東 直人	シェーグレン症候群の口腔内病変における唾液中EGF産生能	1,200	360
生化学	崎山 晴彦	転写因子ChREBPを標的とした生活習慣病病態の解析	1,500	450
免疫学・医動物学	安田 好文	抗ハブテンIgEによるアレルゲン多様化モデルの検討	2,100	630
病原微生物学	内山 良介	I型インターフェロンによる脾臓辺縁帯環境の制御を中心とした肺炎球菌感染防御機構	2,000	600

所 属	研究代表者	研 究 課 題 名	交付内定額	
			直接経費	間接経費
環境予防医学	東山 綾	多価不飽和脂肪酸と新しい腎機能指標の関連—都市・農村部住民での断面・縦断的検討—	1,400	420
法医学	内海 美紀	慢性覚せい剤投与の線状体・側坐核に及ぼす影響と精神病形成のメカニズム	2,500	750
内科学(上部消化管科)	近藤 隆	慢性ストレス誘発性のラット消化管知覚過敏モデルの作成と中枢性オキシトシンの効果	1,500	450
皮膚科学	羽田 孝司	アレルギー性皮膚疾患におけるnuocyteの免疫学的解析	1,000	300
薬理学	長野 貴之	ミクログリアの細胞機能調節によるアルツハイマー病治療の検討	1,200	360
耳鼻咽喉科学	宇和 伸浩	頭頸部癌におけるケモカインレセプターと癌幹細胞マーカー	1,900	570
外科学(小児外科)	野瀬 聡子	骨髄間葉系幹細胞は組織腸管上皮幹細胞を支配するの	1,200	360
病理学(機能病理部門)	山根木 康嗣	ヒストン脱アセチル化阻害剤およびDNAメチル化阻害剤を用いた腫瘍血管新生抑制	1,700	510
歯科口腔外科学	長谷川 陽子	味や香りが異なる食品の咀嚼によって生じる脳および全身の変化についての検討	2,000	600
歯科口腔外科学	瀬川 英美	口腔癌細胞におけるEMTマーカーとしてのZyxinの発現および機能について	1,700	510
計 (121件)			211,650	63,495
			275,145	

平成23年度科学研究費補助金(奨励研究)交付内定一覧

平成23年度科学研究費補助金(奨励研究)(5件 総額2,700千円)の交付が下記のとおり内定されました。
なお、昨年度の交付額は2件 1,170千円でした。

(単位：千円)

所 属	研究代表者	研 究 課 題 名	交付内定額	
			直接経費	間接経費
奨励研究				
研究技術第一課	足立 伸行	親水性有機リン系農薬アセフェートおよびメタミドホスの体内動態と毒性の経時変化解析	600	0
先端研(神経再生研究部門)	土居 亜紀子	虚血誘導性神経幹細胞を用いた共培養法の検討	600	0
リハビリテーション部	井谷 祐介	心疾患患者に対する運動療法の筋酸素動態への効果	500	0
呼吸器外科学	米田 和恵	胸部悪性腫瘍における末梢血液中循環腫瘍細胞の新規検出システムの構築	500	0
研究技術第二課	河本 舞	実験動物の配偶子の国内簡易輸送法の確立	500	0
計 (5件)			2,700	0
			2,700	

平成23年度 厚生労働科学研究費補助金交決定一覧

(単位：千円)

研究事業名	研究課題名	所属部局	研究代表者	交付額
がん臨床	治癒切除後の再発リスクが高い進行胃がん(スキルス胃がんなど)に対する標準的治療の確立に関する研究	外科学 (上部消化管外科)	笹子 三津留	25,000 (うち間接経費 4,508)
がん臨床	切除可能悪性胸膜中皮腫に対する集学的治療法の確立に関する研究	内科学 (呼吸器・RCU科)	中野 孝司	20,000 (うち間接経費 3,607)
肝炎等克服緊急対策	血小板低値例へのインターフェロン治療法の確立を目指した基礎および臨床的研究	内科学 (肝・胆・膵科)	西口 修平	20,400 (うち間接経費 3,400)

財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況

(単位：千円)

助成団体名	研究課題名	研究者	交付額
(公財)住友財団	マイクロ波による巨視的量子コヒーレンスを持つ2層系量子ホール効果の研究	福田 昭(物理学)	2,000
(財)兵庫県健康財団	in vivo イメージングを可能にする悪性中皮腫の致死性進行癌モデルマウスの作製	久保 秀司(遺伝学)	250
(財)兵庫科学技術協会	重症型細菌感染症に対するI型インターフェロンの作用機構	内山 良介(病原微生物学)	1,000
(財)兵庫科学技術協会	心不全・貧血関連ネットワークの解明と新規治療への応用	内藤 由朗(内科学(循環器内科))	950
(公財)ソルト・サイエンス研究財団	食塩感受性高血圧における鉄の関与と新規治療への応用	内藤 由朗(内科学(循環器内科))	950
(財)かなえ医薬振興財団	アレルギー疾患発症におけるサイトカイン産生調節機構の研究	松下 一史 (先端研(アレルギー疾患研究部門))	1,000
(公財)国際科学技術財団	上皮細胞におけるIL-33発現誘導機構の解明	松下 一史 (先端研(アレルギー疾患研究部門))	1,000

第105回医師国家試験の結果について



医学教育センター
成瀬 均

平成23年2月12日－14日に施行されました、第105回医師国家試験の合格発表が、平成23年3月18日に行われました。全国での受験者数、合格者数、合格率と本学出身者のデータを表1に示します。

	受験者数	合格者数	合格率
全国計	8,611	7,686	89.3%(+0.1)
うち新卒者	7,723	7,151	92.6%(−0.2)
兵庫医科大学	111(+10)	98(+6)	88.3%(−2.8)
うち新卒者	104(+9)	94(+2)	90.4%(−6.4)

表1 第105回医師国家試験の結果(括弧内は昨年比)

本学では2年連続して新卒の合格率が非常に良かったのですが、今年は新卒でも10名の不合格者が出た結果、90.4%と最近数年の合格率と比べると悪い結果でした。上記の表を参照していただければわかりますが、本学の新卒受験者数は昨年より9名増えているため、一見すると卒業者数を増やした分だけ不合格者が増えたような印象を持たれるかもしれませんが、ひいては「ここ2年ほど合格率がよかったので油断して卒業判定を甘くしたせいではないか」と思われるでしょうが、実際はそれほど単純ではありません。

まず第一に卒業生の成績データは、教務委員会や医学教育センターできわめて客観的に分析されているので、卒業判定基準がその時のムードで揺らぐことはなく、今年の卒業生の学力レベルは去年と同等でした(不合格者の中で卒業試験最上位は72位で、他の模擬試験より良い相関)。次に今年の傾向として必修問題の詰めが甘かったり(いわゆる必修落ち)、体調不良のため予想外の学生が落ちるという不運が重まりました。

2年前に100%合格率を達成したときに「何が良かったのですか？」という質問をよく受けましたが、「今年は何が悪かったのですか？」という質問と同様、答えはありません。関西私学の合格率順位を見ても、去年4位だった本学は17位、関西医大が6位から26位となり、大阪医大は19位から今年1位、近大が24位から19位と躍進していますが、このような混戦状態をみても、単純に卒業判定のボーダーラインを動かすだけで、合格率が操作できる時代は終わったのかもしれませんが。他大学でもそうだと思いますが、予備校の導入、低学力者の補習、合宿など、合格率向上のため懸命の努力をしており、一発逆転の奇策などなく、こつこつと地道な努力を重ねていくだけです。成績が良かった大学も来年はどうかと聞かれるとおそらく予想もつかな

いでしょう。

そんな状況で(詳細は企業秘密ですが)必修対策に力を入れたり、卒業保留にかからなかった成績下位学生に対してフォローアップするなど、教務委員会と医学教育センターで来年に向けすでに反省点に基づく作戦をいくつか考えています。

ところで今年不合格者中8名は留年経験者でした。今後更に詳しいデータ解析が必要ですが、やはり留年経験は予後不良因子の一つであるといえるでしょう。そうすると低学年から留年させないような対策をすることが、結局は国家試験対策につながるわけで、すでに1年の頃から戦いは始まっているといえます。

明るい材料としては国家試験不合格者のほとんどの人は翌年合格するため国試浪人が少ないという点です。国家試験対策に2年間かければほとんど全員合格するということは、本学の卒業判定が妥当であることの証です。しかし言い換えれば学生は5年の初めから国家試験にむけてロングスパートを切らなければならないという意味でもあります。臨床実習で大変とは思いますが、放課後や週末に少しずつでも勉強する習慣をつけることが肝要です。

国家試験が実質上の競争試験となった今は、全国の医学生が猛勉強するため、学力による合否判定だけでなく、3日間朝から晩まで国家試験を受け通すことができる体力と精神力も養っているかどうかの判断も厚生労働省が加味しているのではと思うこともあります。

昔とは比べものにならないほど厳しい今の国家試験は、学生のみなさんには大変と思いますが、我々教員も力一杯サポートしますので、来年に向けてともにがんばっていきましょう。

学位授与

氏 名	専 攻	学 位 論 文 名	番 号	授与年月日
よしだ ちかこ 吉田 千佳子	医科学専攻	Role of plasma aldosterone concentration in regression of left ventricular mass following anti-hypertensive medication	甲第552号	H22.3.31
おくだ きとし 奥田 哲	医科学専攻	心・腎保護の観点からみた降圧治療においてアンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬に利尿薬を追加する意義	甲第553号	H23.3.10
さいの おりえ 斉野 織恵	先端医学専攻	Immunodeficiency reduces neural stem/progenitor cell apoptosis and enhances neurogenesis in the cerebral cortex after stroke	甲第554号	H23.3.31
どい あきこ 土居 亜紀子	先端医学専攻	Bone marrow mononuclear cells promote proliferation of endogenous neural stem cells through vascular niches after cerebral infarction	甲第555号	H23.3.31
ほしな こうじ 保科 幸次	医科学専攻	甲状腺眼症-210例の検討と新たな診断基準の提案-	甲第556号	H23.3.31
さえきの ぶお 佐伯 暢生	医科学専攻	Utility of real-time diagnosis using contact endoscopy for oral and lingual diseases	甲第557号	H23.3.31
かとう きょういち 加藤 恭一	医科学専攻	Infliximab Therapy Impacts the Peripheral Immune-system of Immunomodulator and Corticosteroid Naïve Patients with Crohn's Disease	甲第558号	H23.3.31
わかばやし かな 若林 可奈	医科学専攻	Administration of angiotensin-converting enzyme inhibitors is associated with slow progression of mild aortic stenosis in Japanese patients	甲第559号	H23.3.31
つだ じゅんこ 津田 純子	医科学専攻	Involvement of CD56 ^{bright} CD11c ⁺ Cells in IL-18-Mediated Expansion of Human γ δ T Cells	甲第560号	H23.3.31
あかほり ひろくに 赤堀 宏州	医科学専攻	Intraleaflet haemorrhage is associated with rapid progression of degenerative aortic valve stenosis	甲第561号	H23.3.31
なかじま ただし 中嶋 匡	医科学専攻	Factors associated with functional outcomes of patients with cerebral embolism due to nonvalvular atrial fibrillation	甲第562号	H23.3.31
かとう じゅんこ 加藤 順子	医科学専攻	Hypercoagulation Activated by Endogenous Interferon- γ Underlies Concanavalin A Hepatitis	甲第563号	H23.3.31
すずき とおる 鈴木 透	先端医学専攻	The Antitumour Effect of γ δ T-Cells is Enhanced by Valproic Acid-induced Up-regulation of NKG2D Ligands	甲第564号	H23.3.31

学位授与

氏 名	専 攻	学 位 論 文 名	番 号	授与年月日
あだち のぶゆき 足立 伸行	医科学専攻	Simultaneous analysis of acephate and methamidophos in human serum by improved extraction and GC-MS	甲第565号	H23.3.31
ひろもと たかし 廣本 孝史	医科学専攻	Up-regulation of neutrophil gelatinase-associated lipocalin (NGAL) in oral squamous cell carcinoma : relation to cell differentiation	甲第566号	H23.3.31
まつうら なおみ 松浦 直己	精神科 神経科学	A structural model of causal influence between aggression and psychological traits: Survey of female correctional facility in Japan	乙第324号	H23.1.6
たけばやし ひろのり 竹林 宏記	耳鼻咽喉科学	Clinical availability of a self-administered odor questionnaire for patients with olfactory disorders	乙第325号	H23.2.3
かし ば けい こ 榎葉 恵子	耳鼻咽喉科学	Lateral orifice of Prussak's space assessed with a high resolution cone beam 3-dimensional computed tomography	乙第326号	H23.2.3
かつ の ともゆき 勝野 朋幸	糖尿病学	Comparison of efficacy of concomitant administration of mitiglinide with voglibose and double dose of mitiglinide in patients with type 2 diabetes mellitus	乙第327号	H23.3.10
たけ だ ひとみ 武田 ひとみ	生体機能学	Differences between the physiologic and psychologic effects of aromatherapy body treatment	乙第328号	H23.3.10
いとやま みつる 糸山 光磨	機能病理学	Expression of both hepatocellular carcinoma and cholangiocarcinoma phenotypes in hepatocellular carcinoma and cholangiocarcinoma components in combined hepatocellular and cholangiocarcinoma	乙第329号	H23.3.25

国際ソロプチミスト女子大学生奨学金給付対象に選定



内科学 リウマチ・膠原病科 神田 ちえりさん

ラテン語で「女性にとって最良のもの」を意味するソロプチミストは1921年にアメリカで、1923年にはイギリスで仕事を持つ女性たちによって活動が開始されました。現在では実業界の管理職、または専門職の分野で活躍する女性たちが組織する、世界最大の職業分類を有する奉仕団体です。日本は、国際ソロプチミストアメリカに属しており、国内には5つのリジョンがあります。日本中央リジョン(近畿を含む2府12県で構成)には、女子大学院生・女子大学生奨学金制度があり、今回この制度に応募したところ、私の研究テーマが採択され、奨学金を頂けることになりました。

私が現在研究しているテーマは「関節リウマチの骨破壊」です。関節リウマチを含む膠原病は女性患者さんが多いことが特徴ですが、膠原病に罹患すると妊娠障害など女性特有の問題を抱えることもあります。女性の患者さんが圧倒的に多い病気ゆえ、女性医師の立場から何か出来る事がないかと日々考えています。現在、研究しているテーマが将来のリウマチ治療に少しでも役立てばと思います。

最後になりましたが、波田副理事長、佐野主任教授に推薦して頂いたおかげで、奨学金を頂くことができました。心より感謝申し上げます。

植込型補助人工心臓実施施設の承認をうけて



心臓血管外科 主任教授 宮本 裕治

心臓移植の待機中に、救命のため一時的に補助人工心臓を使用して心臓移植のドナーが現れるのを待つという方法があります。日本では現在、人工心臓を着けて新しい心臓を待っている患者さんが沢山います。しかしこれまで日本で認可されていた人工心臓は古いタイプで、人工心臓が体の外にあり太いパイプで体と繋がっているため日常生活に大きな支障がありました。ところが平成23年4月から、新しいタイプの人工心臓(植込型補助人工心臓)が日本でも保険適用で使用できるようになりました。この新しい人工心臓の手術を行う技術があり適切な管理ができる施設のみで植込み実施が承認されることになり、全国で12施設に限定され兵庫医科大学もこの中に選ばれました。

この人工心臓は図1に示すように体内に植え込まれ、細いパイプで体外のバッテリーと繋がれます。携帯型バッテリーを使用しますと図2に示すように自由に外出できるようになります。また、ずっと入院する必要はなく退院できます。このような状態で心臓のドナーが現れるまで2～3年以上も自宅で暮らすことができます。今後当院でも適応のある患者さんに対してこの治療を積極的に行うつもりです。

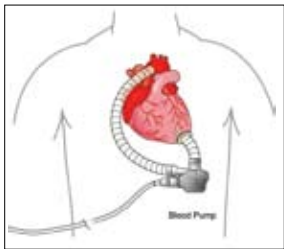


図1： 植込型補助人工心臓の模式図



図2： 携帯型バッテリーで外出する患者

認定植込型補助人工心臓実施施設

(平成23年3月1日)

心臓移植認定施設	施設名	心臓移植認定施設	施設名
○	大阪大学		東京医科歯科大学
○	九州大学	○	東京女子医科大学
	群馬県立心臓血管センター	○	東京大学
○	国立循環器病研究センター	○	東北大学
○	埼玉医科大学国際医療センター		兵庫医科大学
	桜橋渡辺病院	○	北海道大学

(50音順)

事務職員対象講演会「組織とは何か」

病院顧問 正木 義博氏

平成23年度から病院職員の経営意識改善に向けた人材育成に取り組むため、病院経営実践のエキスパートとして著名な、済生会横浜市東部病院院長補佐である正木義博氏に兵庫医科大学病院の顧問を委嘱しました。正木氏には病院幹部職員に必要とされるマネジメント能力、医療専門職員の職務能力向上方策、接遇教育等についてご指導いただきます。

第1回目にあたる4月19日には3-1講義室において「組織とは何か」と題したセミナーが開催され、事務職員、コメ

ディカル職員約160名が参加しました。セミナーの中では当院が向かうべき行き先(ビジョン)を明確にし、達成するための経営戦略策定と組織マネジメントの必要性をラグビーの頑強なスクラムに例えてご説明いただきました。

今後、正木氏には月1回程度来院していただき、事務職員のみならずコメディカル職員も含め次世代を担う職員を中心として、経営意識改革に向けご指導いただきますので、職員の皆さんは積極的な参加をお願いします。



兵庫医科大学 オープンキャンパス・入試説明会

事前申込
不要

	オープンキャンパス	入試説明会
日時	8月12日(金) 13:00～16:00	8月30日(火) 13:00～17:30
場所	西宮キャンパス 3号館4階 3-3講義室	平成記念会館
内容	■入試概要説明会 ■模擬講義 「外科はこんなに素晴らしい」 講 師：呼吸器外科学 主任教授 長谷川 誠紀 ■キャンパス見学 ■個別相談コーナー ■在学生との交流コーナー ■体験コーナー ■資料の無料配布 ・平成24年度学生募集要項 ・2012大学案内 ・2012入試ガイド (サブパンフレット) ・オリジナルグッズ 	■入試概要説明 ■「医学部入試動向について」 予備校進学アドバイザー ■大学説明 「兵庫医科大学の現在と未来」 兵庫医科大学 学長 中西 憲司 「医学の勉強はどんなのだろう」 ～医師に求められる資質と兵庫医大の教育～ 兵庫医科大学 副学長 鈴木 敬一郎 ■個別相談コーナー ■資料の無料配布 ・平成24年度学生募集要項 ・2012大学案内 ・2012入試ガイド (サブパンフレット) ・オリジナルグッズ 
問合せ	兵庫医科大学 学務部入試課 TEL:0798-45-6162(直通) FAX0798-45-6972	

兵庫医療大学 オープンキャンパス

事前申込
不要

日時	8月6日(土)、7日(日)、20日(土)、21日(日) 全日程とも13:00～17:00(予定)
内容	■大学全体説明ガイダンス ■学部ガイダンス&体験実習 ■キャンパスツアー ■個別相談コーナー ■在校生との交流コーナー ■入試相談コーナー など ※ 各日程の詳細プログラムは、決まり次第、 ホームページ上でご案内いたします。 ※ 8月21日(日)大学院説明会も同時開催！！ (看護学研究科のみ) 大学院ではどんなことを学べるの？など、気になる質問 にお答えする個人相談会です。ぜひご参加ください。
問合せ	兵庫医療大学 広報・情報グループ TEL:078-304-3034(直通) FAX078-304-2734

平成22年度各種国家試験結果について

兵庫医療大学 学長
松田 暉

兵庫医療大学は開学4年を経て本年3月、看護学部とリハ学部の一期生が無事卒業いたしました。これまで温かく見守りご支援いただいた学校法人兵庫医科大学並びに関係各位に厚く御礼を申し上げます。1期生の国家試験の結果が出ましたので、ご報告させていただきます。

1：看護師、保健師、助産師

- 1)看護師国家試験は、幸い110名全員が合格しました。学生達は4年後期でも実習があり、カリキュラムが最後までかなりきつく、国家試験準備もままならない状況でした。しかし、学部の国試対策への継続した取り組みと学生の頑張りで全員合格という嬉しい結果になりました。
- 2)保健師については残念ながら全国平均より低い結果であり、反省すべき点が多いと思っています。
- 3)助産師も9名全員が合格しました。助産師課程を選択した学生は正常分娩の実習が課題で、国家試験が近くなってもまだ症例がこなせず、精神的にも辛かったようですが、良く頑張ったと思っています。

2：理学療法士、作業療法士

共に2名の不合格者が出ましたが、合格率は理学療法士が95.0%、作業療法士が94.4%と、4年制大学新卒者の全国平均87.0%(理学療法士)と84.9%(作業療法士)に比べても優秀な成績であり、近隣の大学ではトップクラスでした。今年は全国平均で見てもかなり厳しい試験であったと思われますが、リハ学部も1期生の頑張りときめ細かい教員の指導で乗り切ったと思います。

全体として振り返ると、大学としての国試対策として、自習スペースの確保、国試準備用の学習コーナー設置、模擬試験の実施、そして各学部の国試対策委員会を中心として個別指導を徹底したこと、等があげられると思います。学生の頑張りと教員のきめ細かい支援の結果であったと思っています。今後ともご指導のほどお願い申し上げます。

第100回看護師国家試験合格状況

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
全体	54,138	49,688	91.8
本学	110	110	100.0
新卒者	48,509	46,785	96.4
内訳(※)			
大学(3年課程)	12,342	12,128	98.3
短大(3年課程)	1,863	1,759	94.4
養成所(3年課程)	20,409	19,932	97.7
既卒者	5,629	2,903	51.6

※2年課程短大・養成所等、5年一貫高校等、EPA等は省略

第97回保健師国家試験合格状況

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
全体	14,189	12,792	86.3
本学	113	93	82.3
新卒者	13,748	12,332	89.7
内訳			
大学	12,935	11,611	89.8
短大専攻科	172	165	95.9
養成所	641	556	86.7
既卒者	1,071	460	43.0

第94回助産師国家試験合格状況

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
全体	2,410	2,342	97.2
本学	9	9	100.0
新卒者	2,097	2,059	98.2
内訳(※)			
大学	709	694	97.9
短大専攻科	163	154	94.5
養成所	944	934	98.9
既卒者	313	283	90.4

※大学院、大学専攻科、その他は省略

第46回理学療法士国家試験合格状況

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
全体	10,416	7,736	74.3
本学	40	38	95.0
新卒者	9,702	7,613	78.5
内訳			
文部科学大臣指定学校(大学)	3,165	2,755	87.0
厚生労働大臣指定(養成所)	6,537	4,858	74.3
既卒者	714	123	17.2

第46回作業療法士国家試験合格状況

	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)
全体	5,794	4,116	71.0
本学	36	34	94.4
新卒者	4,697	3,738	79.6
内訳			
文部科学大臣指定学校(大学)	1,712	1,454	84.9
厚生労働大臣指定(養成所)	2,985	2,284	76.5
既卒者	1,097	378	34.5

就任挨拶



看護学部長就任挨拶 看護学部 竹田 千佐子 〈4月1日就任〉

このたび、第1回卒業生を送り出しました兵庫医療大学看護学部学部長を拝命致しました。看護実践能力の向上が叫ばれている情勢の中、私達はこの4年間、“看護学部卒業時到達目標”を目指し、①「人間・健康・環境・看護」の理解とそれぞれの関係が深まるような学年ごとの科目配置、②関連科目の講義・演習・実習への積極的参加等における教員の相互理解、③教員同士の密な情報交換を図り、学生の学びを積み上げる工夫、④看護技術の習得における学生の自学・自習促進、⑤国際的視野からの「人間・健康・環境・看護」の学習などを実践して参りました。そして、兵庫医療大学での学びを修めた卒業生たちが社会に巣立った今、看護専門職を培う学士教育として何を備えるべきか等、社会からの評価をも踏まえた教育評価の時期を迎えております。大学という場を通してどのような人間性を養い、どのような専門性の高い教育内容としていくのか、看護学部全教員が一丸となって検討を重ね、学生との協同のもと魅力ある大学づくりに励みたいと考えております。今後とも、引き続き皆様の温かいご支援をお願い申し上げます。



リハビリテーション学部長就任挨拶 リハビリテーション学部 藤岡 宏幸 〈4月1日就任〉

平成23年1月より兵庫医療大学リハビリテーション学部に教授として着任し、4月からリハビリテーション学部長と理学療法学科長を拝命しています。昭和63年に神戸大学医学部を卒業後、直ちに神戸大学整形外科に入局し、その後、兵庫医科大学整形外科に勤務させていただきました。整形外科の中でも、特に、手指の腱や末梢神経の障害、関節リウマチやスポーツによる関節障害、切断肢指など神経血管損傷を合併した外傷など、上肢機能を再建する診療を中心に行ってきました。基礎研究では、生体吸収性高分子ポリマーを用いた関節軟骨修復の開発を行ってきました。近年、医学は、臓器移植や再生医療などの最新の研究のほか、高齢化社会や大規模災害に対応できる医療や街づくりなど様々な分野で新たな展開をしており、もともと独立した専門領域の境界を取り払って、それぞれの分野を連携した医療の実践が必要です。リハビリテーション医学も、循環器、呼吸器、消化器、脳神経、運動器などの様々な専門診療科と連携して、病院では患者さんの機能回復を促し、自宅ではその獲得した能力を活かして快適に生活できるように支援するという重要な役割を担っています。また、病気の予防や健康増進、スポーツ能力の向上なども行います。

これからも、学校法人兵庫医科大学の一員として、兵庫医療大学においてリハビリテーションの実践を担う理学療法士や作業療法士の育成に貢献したいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



学生部長就任挨拶 共通教育センター 藤田 幸久 〈4月1日就任〉

昨年6月から前学生部長の土肥信之先生の代行を務めさせていただいておりましたが、今年4月1日付けで兵庫医療大学学生部長を拝命いたしました。兵庫医科大学在職中から数えて20年以上の期間、学生委員会の委員として学生会活動や文化部、運動部の課外活動の支援など、学生の大学での生活の充実を目指す様々な学生部の活動に関わってきました。医療系大学において、学生の学生会活動やクラブなどの課外活動あるいはボランティア活動は、非常に重要な社会人教育の場であると認識しております。これらの活動を活性化し、様々な医療現場や企業体でチームの一員として、本学で培った能力を最大限に発揮できる卒業生を一人でも多く社会に送り出すことに、今までの経験を生かして微力ながら貢献したいと考えております。皆様のご支援、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。



地域連携実践センター長就任挨拶 薬学部 清宮 健一 〈4月1日就任〉

本年4月1日より前任者の土居洋子先生の後を受けて兵庫医療大学地域連携実践センター長を拝命いたしました。よろしくお願い申し上げます。本センターは、本学開学当初より健康の維持・増進を通じて本学地域住民との連携を図るためのイベントなどを企画・実施しています。開学の翌年に本学に赴任して以来、前センター長の土居洋子先生の下で同センターの運営・活動の中心を担う地域連携推進委員会の一員として、公開講座、健康相談、地域交流プロジェクトなどのイベントの企画・実施に関する活動に参画してまいりました。これらイベントへの参加者は、回を重ねるに従って口コミやリピーターなどによって着実に増加しています。これからも本学地域住民のニーズにマッチした健康維持・増進活動を皆様と協力しながら着実に継続・発展させていきたいと考えております。皆様のご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



キャリアデザインセンター長就任挨拶 薬学部 田中 明人 〈4月1日就任〉

本年度より兵庫医療大学キャリアデザインセンター長を務めさせていただきます。昨年度は前センター長・藤田先生をはじめ、関係各位の先生方のご協力により第1期の卒業生は早々に就職率100%を達成しましたが、いよいよ本年度後半から薬学部第1期生の就職活動が開始されます。ご存知のように現在は就職氷河期と言われ、一般企業の実質就職率は50-60%程度と言われており、就職活動が深刻な状況にあります。薬学卒業生の主な就職先はこれら一般企業と景気動向が異なる薬剤部・薬局がメインであるため、この直撃を受けることは無いかもしれませんが、薬剤師免許を活かす就職先の中には一般的な企業や公務員なども含まれており、厳しい戦いが予想されていることも事実です。しかし、当大学の強みである“兵庫医科大学姉妹校”というメリットを最大限活用し、薬学部教員およびセンター員が中心となり、各方面の先生方のご協力を仰ぎながら、何とか今後も就職率100%を堅持していきたいと考えておりますので、何卒皆様のご鞭撻・ご協力をお願いいたします。



大学院看護学研究科長就任挨拶 看護学部 上原 ます子 〈4月1日就任〉

このたび看護学研究科長を拝命いたしました。出発期の大学院修士課程における責任の重要性を考えますと身の引き締まる思いです。本学に着任いたしまして日の浅い2年前6月から修士課程開設準備に参加し、昨年7月からは看護学研究科開設準備委員会を発足して協力体制のもと検討を進め12月末認可に至りました。看護学は実践の科学としての発展と高度な専門看護実践者が求められており、その推進を目指して本研究科では「看護学基礎研究」と「看護学課題研究・高度実践(専門看護師)」の2領域を設け、4月には8人の入学生を迎えることができました。今後の高度看護実践者を育成するため、共通科目では兵庫医科大学の多くの先生方にご協力をお願いし、看護学演習・実習では兵庫医科大学病院看護部のご協力もいただきながら、看護学研究科の教育・研究の推進に努める所存でございます。どうぞご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



大学院医療科学研究科長就任挨拶 リハビリテーション学部 野崎 園子 〈4月1日就任〉

医療科学研究科は、リハビリテーション科学領域の研究科としてスタートしましたが、将来的には医療科学に関連する学際的な新しい分野もこの研究科に加えていくことを目指しております。2分野、6コースを設け、病態運動学分野は中枢神経系障害治療学、運動器系障害治療学、生活活動支援学、人間活動科学分野は、身体・認知活動学、精神・心理、摂食・嚥下リハビリテーション学のコースからなり、一期生として9名の大学院生が学びを始めています。大学院生の志向に合わせて、高度実践専門職者の養成を目指すプログラム(課題研究)と、研究を主とするプログラムのいずれかを選択し、臨床実践能力の向上、研究能力の向上を目指します。今回の入学生はすべて社会人大学院生であり、主に週末に講義を受け、週日は臨床の場で経験を積みながら研究を行っていきます。院生の教育には、学外や兵庫医大の多くの先生方のご指導をいただいております。まさに学際的な教育プログラムのもとで学んでいきます。このような恵まれた教育環境の下、医療人としての幅広い教養と高い研究能力をぜひ身につけてほしいと願っております。本研究科を巣立った院生が、臨床や学術研究の場で高い評価を受けられるよう、また、指導者として活躍できるよう、教員全体でサポートしていきたいと思っています。



教授就任挨拶 看護学部 鈴井 江三子 〈4月1日就任〉

私は、1979年岡山大学医学部付属助産婦学校卒業、倉敷中央病院を経て、三宅医院に14年間婦長として勤務。その後、川崎医療福祉大学、広島県立保健福祉大学、川崎医療福祉大学大学院保健看護学専攻助産学コース主任を経て、この度、兵庫医療大学看護学部助産学領域の教授として着任いたしました。この間、1997年から2002年まで、国際看護交流協会運営委員を勤め、アジア19カ国を対象にした幹部看護職教育研修プログラムを開催。1999年にはガーナ共和国母子保健向上プロジェクトに短期専門家として参加し、2001年にはタンザニア看護教育現地調査を実施しました。この他、私の研究課題の一つである子どもへの性暴力に関する研究成果を基に、犯罪のない安心・安全岡山県づくり検討委員会副座長、子どもの安全確保小委員会委員長等を務め、現在は、ナイジェリア連邦共和国における母子保健向上プロジェクトに参加しています。これらの経験から得たものを次世代に伝えることで、多面的な女性支援の在り方や生き方が提示できたらと考えています。まだまだ不慣れなことも多いので、ご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

就任挨拶



教授就任挨拶 看護学部 細見 明代 〈4月1日就任〉

平成23年4月1日付で兵庫医療大学看護学部生活支援看護学領域老年看護学の教授として着任いたしました。5年間の臨床経験を経て、1986年に神戸市看護短期大学に移り、その後神戸市看護大学で教育研究に携わってきました。

老年看護学は、人口の高齢化・少子化、医療の高度化・専門化を背景に、その在り方が模索され、65歳から100歳を超える幅広い年齢層の多様な健康状態にある高齢者に、医療・保健・福祉施設、在宅、地域等に亘る多様な場での実践方法の開発、実践能力の育成が喫緊の課題となっています。

今まで取り組んできた「寝たきり高齢者への日常生活援助」「高齢者ケアにおける連携・協働」等の研究や教育経験を生かし、チーム医療の一員として多様な場において必要とされる看護を展開できる臨床実践能力をもった看護専門職者の育成に努めたいと考えています。

皆様のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



教授就任挨拶 リハビリテーション学部 玉木 彰 〈4月1日就任〉

本年4月よりリハビリテーション学部理学療法学科の教授として着任いたしました。私は1988年に京都大学を卒業した後、大阪府内の病院で理学療法士として臨床経験を積みました。その後、1994年に大阪府立の医療系大学として開学した大阪府立看護大学(現大阪府立大学)の理学療法学科助手として異動し、大学教員生活をスタートしました。そして2001年に母校の京都大学へ助教授(のちに准教授)として戻り、本年3月末まで10年間勤務してきました。京都大学在職中には大学院修士課程、博士課程の設置に関わり、また大学院生の教育・研究指導も経験しました。

さて私の専門は呼吸理学療法(呼吸リハビリテーション)です。前任地である京都大学では附属病院で呼吸障害を持った多くの患者さんの治療に携わってきました。そしてこの数年間は特に肺移植前後の患者さんを中心に診療をしてきました。昨年の夏に臓器移植法が13年ぶりに改正され、これまでに比べより多くの患者さんが臓器移植を受けられるようになりました。このような先進医療においても理学療法はとても重要な役割を果たします。したがって、本学でも従来のイメージである理学療法だけでなく、先進医療にも関わることができる能力を持った理学療法士を育成したいと考えております。

微力ではありますが、これまでの経験を活かし、本学の教育・研究に貢献できるよう努力するつもりでありますので、どうか御指導、御鞭撻を宜しくお願い致します。

第二回 学校法人兵庫医科大学連携病院の会 合同病院説明会を開催

平成23年5月7日(土)、兵庫医療大学体育館アリーナにおいて、薬学部5年生、看護学部・リハビリテーション学部の4年生を主に、全学部・全学年の学生(希望者)を対象に開催されました。

学校法人兵庫医科大学連携病院の会は、学校法人兵庫医科大学と約120の連携病院が人事の交流により相互の活性化を促進し、組織的な連携を強めること、効率的で有効な学生教育に資すること、地域医療の向上に寄与すること等を目的とし、平成21年に発足したものです。

平成24年春に看護師、理学・作業療法士の採用を予定している兵庫・大阪の54病院に一堂にお集まり頂き、病院説明を行って頂きました。また今回は、本格的な就職活動が近づく薬学部5年生の学生の参加も多く、キャリア教育の一環としても多くの病院にご協力頂きました。

学生にとって、大学で開催する合同病院説明会は、就職活動だけのものではなく、実際に社会で活躍している人の「働きぶりや価値観」に触れ、学ぶ貴重な機会となります。

延べ287名の学生が参加した今回の説明会では、「それぞれの病院の特色の違いや働くことの厳しさを知ることができてよかった。」「教育制度等、自分が気になる点を直接聞くことができて参考になった。」などの感想があり、今後の就職活動や実習に対する意欲を高めることができました。



平成23年度科学研究費補助金交付内定一覧

下記のとおり、平成23年度は38件 総額69,940千円(うち直接経費53,800千円、間接経費16,140千円)の交付が内定しました。

なお、平成22年度は38件 総額60,150千円(うち直接経費47,100千円、間接経費13,050千円)でした。

(単位:千円)

研究課題名	所属部局	研究代表者	交付内定額	
			直接経費	間接経費
基盤研究(B)				
外来化学療法を受ける肺がん患者の生活を支援する情報提供・相談システムの開発と評価	看護学部	網島 ひづる	500	150
心不全に対する埋め込み型補助人工心臓による社会復帰を目指した新たな治療法の導入	学長	松田 暉	4,000	1,200
乳がん早期発見のための乳房セルフケア促進プログラムの開発と妥当性の検討	看護学部	鈴木 久美	2,100	630
遺伝子多型情報に基づくワルファリンの適正投与量設定へ向けた前向き臨床試験	薬学部	東 純一	4,600	1,380
基盤研究(C)				
呼吸リハビリテーションのための遠心性収縮ベダリングシステムの開発と臨床応用	リハビリテーション学部	玉木 彰	500	150
光触媒による新規複合型レドックス反応の開発	薬学部	甲谷 繁	700	210
HGFアンタゴニスト(NK4)による滑膜増殖の制御	薬学部	岩崎 剛	700	210
認知症高齢者グループホームの終末期ケアにおける看護連携システムの開発	看護学部	平木 尚美	500	150
在宅嚥下リハビリテーションのEBMの確立－高齢者の誤嚥性肺炎予防プログラムの構築	リハビリテーション学部	野崎 園子	1,100	330
ラジカル種の特性を活用した合成法開拓の新展開	薬学部	宮部 豪人	900	270
疾患による免疫系の活性化が肝薬物代謝酵素の機能に及ぼす影響	薬学部	九川 文彦	500	150
血小板減少症治療薬インターロイキン－11を用いた有効な心不全発症予防療法の確立	薬学部	前田 真貴子	1,400	420
シスプラチン腎障害のメカニズム解明とその軽減に向けた薬物療法の創出	薬学部	上田 晴康	1,300	390
高内皮細静脈特異的な細胞動員シグナルによる自然免疫と獲得免疫を繋ぐ細胞動態制御	薬学部	田中 稔之	1,000	300
薬物輸送通路の解明－トランスポーターとギャップ結合の関連－	薬学部	三浦 大作	800	240
肥満と活性酸素：メタボリック症候群と動脈硬化の病態に対するSODの関与	薬学部	大河原 知水	1,100	330
転移性肝がん患者への原発がん手術の体験を反映させた周手術期看護援助方法の考案	看護学部	小西 美ゆき	500	150
メンタルヘルス不全により休職した看護師の実態調査及び復職支援ツールの開発	看護学部	富永 真己	900	270
神経因性疼痛における新規Kチャネルと交感神経の役割に関する研究	薬学部	山本 悟史	1,100	330
光切断リンカー付アフィニティ樹脂を用いた汎用的な生理活性物質探索法の開拓	薬学部	田中 明人	900	270
臨床検体に基づく実践的生体分子を標的とする天然由来分子標的抗がん剤の探索	薬学部	青木 俊二	1,800	540
膜破壊型殺菌消毒剤を活用した細菌の多剤耐性獲得に関する転写調節因子の分子機構解明	薬学部	前田 拓也	3,300	990
ペインセンサーTRPA1のチャネル活性抑制メカニズムの解明	薬学部	戴 毅	1,700	510
挑戦的萌芽研究				
周産期における父親のうつ状態の推移と危険因子－社会的要因と生物学的要因の重要性－	看護学部	西村 明子	1,000	300
学童保育指導員の性被害・虐待被害児へのケア能力向上に向けた教育に関する研究	看護学部	鈴井 江三子	500	150
関節拘縮予防のための安全な他動運動の実施に関する研究	リハビリテーション学部	日高 正巳	2,200	660
新規ミトコンドリア融合抑制因子HPPGBによる心臓/代謝機能制御の同定	薬学部	馬場 明道	1,800	540
サーモグラフィを手法とした感染制御のための発熱判定ガイドラインの構築	薬学部	芝田 宏美	2,200	660
C型肝炎患者の治療中のセルフマネジメントを促すグループ介入プログラムの効果の検証	看護学部	鈴木 久美	1,400	420
若手研究(A)				
微弱電流刺激のエビデンスを創造する	リハビリテーション学部	坂口 顕	4,100	1,230
若手研究(B)				
慢性閉塞性肺疾患患者の増悪予防のための自己管理を促す心理教育的介入プログラム開発	看護学部	松本 麻里	1,300	390
悪性中皮腫の多剤耐性獲得におけるヒアルロン酸が誘発する上皮間葉転換の意義	薬学部	大野 喜也	1,400	420
長鎖脂肪酸：アミノ酸抱合経路によるインスリン抵抗性の制御	薬学部	伊藤 崇志	1,500	450
PKC－ε選択的活性化による新規抗認知症治療剤創製と新規ターゲット探索	薬学部	清水 忠	1,200	360
前立腺癌の個別化適正ホルモン療法確立のための科学的基盤構築	薬学部	南畝 晋平	1,000	300
他動的下肢体幹運動および努力性横隔膜呼吸運動が腸管運動に及ぼす影響	リハビリテーション学部	森沢 知之	500	150
入院する小児の転倒転落リスクアセスメントツールの作成とその効果に関する研究	看護学部	藤田 優一	200	60
レビー小体型認知症のある高齢者の体験に基づいたケア方法の構築	看護学部	加藤 泰子	1,600	480
計(38件)			53,800	16,140
			69,940	

平成２３年度厚生労働科学研究費補助金交付決定一覧

(単位：千円)

研究事業名	研究課題名	所属部局	研究代表者	交付基準額	
				直接経費	間接経費
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	禁煙治療薬による喫煙関連疾患予防法の再評価と効果的な禁煙指導法の確立と普及のための多施設共同臨床試験	薬学部	東 純一	4,700	0
地域医療基盤開発推進研究事業	諸外国のマグネット・ホスピタルの組織特性とその要素に影響する取り組みに関する研究	看護学部	富永 真己	1,500	0

財団法人等各種団体による研究助成金等の交付状況

(単位：千円)

助成団体名	研究課題名	所属部局	研究代表者	交付額
(財)ひょうご科学技術協会	非イムノグロブリン型人工抗体の酵母スクリーニング系の創製	薬学部	芝崎 誠司	1,000
(財)日中医学協会	TRPA1受容体を標的とする天然薬物成分の探索およびその鎮痛メカニズムの解析	薬学部	戴 毅	900

兵庫医療大学のための募金 状況報告

「兵庫医療大学」のための募金活動を平成１８年５月に開始して以来、これまでに教職員をはじめ、後援会(保護者)、緑樹会(卒業生)、名誉教授、退職者等(６７９名)は言うに及ばず協力医療機関や関連企業等を始めとする幅広い方々から、温かいお申し込みを賜り、誠に有り難く、厚くお礼申し上げます。

本学法人といたしましては、ご協力賜りました方々のご芳名を大学広報に掲載させていただき、感謝の意を表したいと存じ、下記のとおり報告させていただきます。

皆様方からご寄付いただきました寄付金を兵庫医療大学の教育研究用施設整備等充実のために利用させていただくとともに、これからも全力で大学の合理化推進等により、必要資金確保に向けて自主的努力を重ねてまいります。加えてぜひとも関係各方面からの更なるご支援を仰ぎお力添えをいただきたく、引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(募金推進室)

H18.5.2～23.3.31

区 分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合 計	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
申 込	359件	738,692,347円	695件	252,860,000円	1,054件	991,552,347円
入 金	358件	737,692,347円	695件	252,530,000円	1,053件	990,222,347円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧

H22.9.1～23.3.31

企業等法人(3法人)	教職員(3名)
(ご芳名のみ記載) 株式会社 光洋様	(ご芳名のみ記載) 中西 憲司様 小柴 賢洋様
匿名 2社	匿名 1名

関連病院等(4法人)
50,000円 医療法人社団顕鐘会神戸百年記念病院様
(ご芳名のみ記載) 医療法人社団 正仁会様 社会医療法人 真真会様
匿名 1法人

学校法人兵庫医科大学基金 状況報告

本学法人は、平成２１年４月１日に学校法人兵庫医科大学基金を創設し、継続的な募金活動を開始するとともに、基金の活動を支援する組織として学校法人兵庫医科大学兵医・萌えの会を設け、その会員の皆様から会費を寄付金のかたちで募り、基金の運営に寄与することとしております。

寄付活動を開始して以来、患者様をはじめ、後援会会員、緑樹会会員、名誉教授、退職者等は言うに及ばず、協力医療機関や関連企業等の幅広い方々から、温かいお申し込みを賜り、厚く御礼申し上げます。

皆様方からご寄付いただきました貴重な浄財は、教育・研究環境の整備や学生への奨学金等の支援を通じて、社会への貢献・還元のために使用させていただきます。

今後とも引き続きご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

(募金推進室)

H21.1.1～23.3.31

区 分	受配者指定寄付金		特定公益増進法人		合 計	
	件 数	金 額	件 数	金 額	件 数	金 額
申 込	134件	27,955,000円	176件	13,812,498円	310件	41,767,498円
入 金	133件	27,855,000円	175件	13,632,498円	308件	41,487,498円

寄付申込者ご芳名・法人名一覧

H22.11.1～23.3.31

企業等法人(48法人)	教職員(20名)
500,000円 全兵庫個人タクシー事業協同組合阪神支部様 500,000円 株式会社 オーエンス様 300,000円 小山株式会社様 100,000円 阪神消毒サービス様 100,000円 田中工業株式会社様	100,000円 新家 莊平様 100,000円 三村 治様 50,000円 飯田 俊一様 50,000円 山田 繁代様
(ご芳名のみ記載) 株式会社 不二家商事様 株式会社アベックス西日本様 八洲薬品株式会社様 アルフレッサ株式会社様 株式会社 ケーエスケー様 丸玉給食株式会社様 武庫川医療サービス株式会社様 株式会社日経サービス様 ヒヤリングアート株式会社 豊中補聴器センター様 ホーチキ株式会社 神戸支社様 成光株式会社様 ユウキ産業株式会社様 三洋電機サービス株式会社様 ヤンマーエネルギーシステム株式会社様 和研薬株式会社様 ベガファーマ株式会社くすみ薬局様 株式会社 西薬局様 有限会社 宝西冷熱工業所様 株式会社 山武 ビルシステムカンパニー関西支社様 近畿医療設備株式会社様 大成温調株式会社様 株式会社三晃空調様 株式会社朝日工業社大阪支社様 大紘設備株式会社様 株式会社イー・ジス様 東洋建設株式会社大阪本店様 鹿島建設株式会社関西支店様 株式会社ナガサワ文具センター様 株式会社 共英メソナ様 野崎商店様 株式会社 兵庫蓄電池様 株式会社今井電気商会様	(ご芳名のみ記載) 西原 力様 岩崎 寮子様 北村 威士様 香川 清和様 匿名 3名

緑樹会(9名)
200,000円 長澤 進様 50,000円 阿河 真一様 10,000円 西脇 学様

(ご芳名のみ記載) 井之上 恵子様	米田 秀志様	匿名 4名
----------------------	--------	-------

株式会社 山武 ビルシステムカンパニー関西支社様	その他個人 (35名)			
近畿医療設備株式会社様				
大成温調株式会社様	500,000円	清水 紀子様	50,000円	酒井 京子様
株式会社三晃空調様	50,000円	森田 満男様	50,000円	岸上 涼子様
株式会社朝日工業社大阪支社様	50,000円	久我 一郎様	50,000円	福光 美草様
大紘設備株式会社様	50,000円	野村 花子様	50,000円	角井 義夫様
株式会社イー ジス様	50,000円	宮田 淳子様	10,000円	米原 知之様

(ご芳名のみ記載) 田中 米治様 利倉 一晴様 利倉 敬子様 中西 和子様 佐々木 宏様 宮崎 弘悦様 治部 和夫様	井上 照子様 米田 孝子様 黒田 脩様 黒田 正子様 瀬尾 多嘉子様 土井 進様 木本 千秋様	匿名 11社 匿名 11名
---	---	--------------------------------------

関連病院等(4法人)
50,000円 医療法人社団顕鐘会神戸百年記念病院様
(ご芳名のみ記載) 医療法人社団 正仁会様 社会医療法人 真真会様
匿名 1法人

平成２２年度決算について

平成２２年度予算編成方針は、
①平成２１年度よりスタートさせた財政基盤改善３ケ年計画の２年目の位置づけとして、事業計画との整合性を保ちつつ、各種施策の優先順位についての査定・選択を行い、限られた資源のなかで健全な資金収支差額及び帰属収支差額を確保する。
②兵庫医科大学、兵庫医療大学の教育・研究の充実、病院診療体制充実の目標に加え、西宮キャンパスの再開発(急性医療総合センター建設着工等)とささやま医療センター開設を計画通りに実施する。
という大きな目標が掲げられ、当初、帰属収支差額１０．８億円を指標としてスタートしました。しかしながら、この予算は、法人が今後計画している諸事業を実行していくには、十分とは言えない水準でした。
このような状況下、今年度は、診療報酬改定の追い風が当初の見込み以上にあったこと、西宮本院の病床稼働率・平均単価が好調に推移したこと、および経費面の圧縮を更に進めたこともあり、ささやま医療センターの収支悪化を吸収し、結果として、決算は帰属収支差額が２６．５億円のプラスと好転しました。また、消費収支差額も５．５億円と６年ぶりにプラスに転じました。

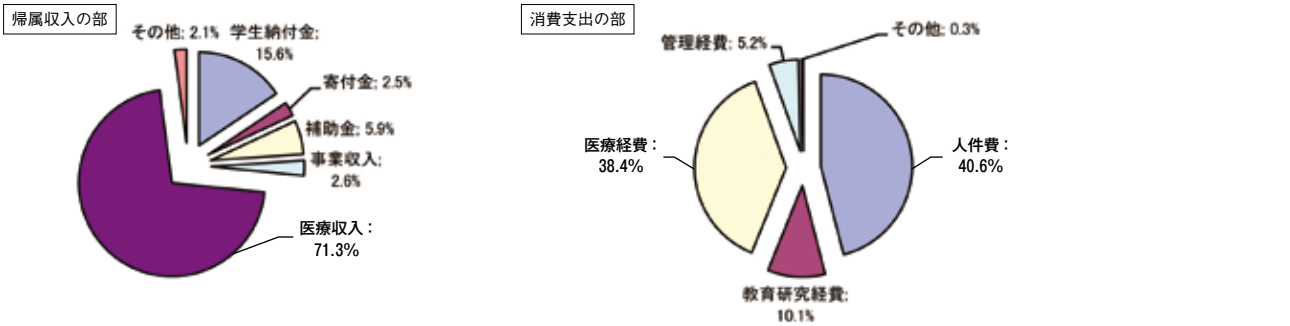
消費収支計算書

消費収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生納付金	6,966,015,000	6,840,005,000	126,010,000
手数料	237,985,000	269,457,940	△ 31,472,940
寄付金	950,564,000	1,078,107,711	△ 127,543,711
補助金	2,560,308,000	2,567,899,032	△ 7,591,032
国庫補助金	1,897,076,000	1,908,676,787	△ 11,600,787
地方公共団体補助金	663,232,000	659,222,245	4,009,755
資産運用収入	40,637,000	122,488,799	△ 81,851,799
事業収入	31,054,216,000	32,370,538,539	△ 1,316,322,539
事業収入	1,293,699,000	1,144,847,623	148,851,377
医療収入	29,760,517,000	31,225,690,916	△ 1,465,173,916
雑収入	424,575,000	518,540,644	△ 93,965,644
帰属収入合計	42,234,300,000	43,767,037,665	△ 1,532,737,665
基本金組入額合計	△ 2,805,302,000	△ 2,095,182,729	△ 710,119,271
消費収入の部合計	39,428,998,000	41,671,854,936	△ 2,242,856,936

消費支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費	18,455,158,000	18,902,903,999	△ 447,745,999
教職員等人件費	17,892,972,000	18,177,777,799	△ 284,805,799
退職給与引当金繰入額	491,535,000	669,008,500	△ 177,473,500
退職金	70,651,000	56,117,700	14,533,300
教育研究経費	4,172,032,000	4,172,531,018	△ 499,018
医療経費	15,838,518,000	15,781,304,198	57,213,802
管理経費	2,269,600,000	2,122,010,672	147,589,328
借入金等利息	94,345,000	73,687,299	20,657,701
資産処分差額	100,000,000	59,431,308	40,568,692
徴収不能額	2,634,000	569,470	2,064,530
徴収不能引当金繰入額	14,114,000	6,353,136	7,760,864
[予 備 費]	200,000,000		200,000,000
消費支出の部合計	41,146,401,000	41,118,791,100	27,609,900
当年度消費収支超過額		553,063,836	
当年度消費支出超過額	1,717,403,000		
前年度繰越消費支出超過額	39,450,670,743	39,450,670,743	
翌年度繰越消費支出超過額	41,168,073,743	38,897,606,907	

収入面で、学生納付金は、兵庫医科大学が開学４年目を迎え、かつ、兵庫医科大学の定員増加（２１年度～）で学生数が増加した影響により全体で６８．４億円となり、対前年度比６．６億円増でした。医療収入に関しては、本院では、外来収入が５億円、入院収入が１５．６億円増加しました。一般病床の稼働率上昇、平均在院日数短縮等に伴う診療単価上昇等の経営努力によるものが１１．３億円、診療報酬改定の影響が９．３億円ありました。その結果、医療収入全体は３１２．３億円で前年度比１９．５億円の増です。その他としては、寄付金収入は１０．８億円、補助金収入は２５．７億円で、帰属収入合計は４３７．７億円でした。
支出面では、人件費が１８９億円、教育研究経費が４１．７億円、薬品費、医療材料費等の医療経費が１５７．８億円等で、消費支出合計は、４１１．２億円となり、帰属収入から消費支出を差し引く帰属収支差額は、２６．５億円でした。
また、帰属収入から控除する基本金組入額は２１億円で、その結果、消費収入の部合計では４１６．７億円となり、消費収支差額が５．５億円と平成１６年度決算以来６年ぶりの消費収入超過となりました。

平成２２年度決算構成比率



資金収支計算書

収入の部			
科目	予算	決算	差異
学生納付金収入	6,966,015,000	6,840,005,000	126,010,000
手数料収入	237,985,000	269,457,940	△ 31,472,940
寄付金収入	902,564,000	1,015,155,402	△ 112,591,402
補助金収入	2,560,308,000	2,567,899,032	△ 7,591,032
国庫補助金収入	1,897,076,000	1,908,676,787	△ 11,600,787
地方公共団体補助金収入	663,232,000	659,222,245	4,009,755
資産運用収入	40,637,000	122,488,799	△ 81,851,799
資産売却収入	1,000,000,000	0	1,000,000,000
事業収入	31,054,216,000	32,370,538,539	△ 1,316,322,539
事業収入	1,293,699,000	1,144,847,623	148,851,377
医療収入	29,760,517,000	31,225,690,916	△ 1,465,173,916
雑収入	424,575,000	518,540,644	△ 93,965,644
借入金等収入	0	106,693,549	△ 106,693,549
前受金収入	1,065,223,500	1,105,604,036	△ 40,380,536
その他の収入	3,193,137,756	3,420,705,987	△ 227,568,231
資金収入調整勘定	△ 6,137,505,483	△ 6,930,761,448	793,255,965
前年度繰越支払資金	11,549,343,602	11,549,343,602	0
収入の部合計	52,856,499,375	52,955,671,082	△ 99,171,707

支出の部			
科目	予算	決算	差異
人件費支出	18,511,102,000	18,803,872,999	△ 292,770,999
教職員等人件費支出	17,892,972,000	18,177,777,799	△ 284,805,799
退職金支出	618,130,000	626,095,200	△ 7,965,200
教育研究経費支出	2,886,158,000	2,852,153,017	34,004,983
医療経費支出	14,169,912,000	14,047,425,548	122,486,452
管理経費支出	2,185,558,000	2,024,801,047	160,756,953
借入金等利息支出	94,345,000	73,687,299	20,657,701
借入金等返済支出	550,820,000	626,345,314	△ 75,525,314
施設関係支出	1,574,895,000	1,416,430,040	158,464,960
設備関係支出	1,710,787,000	1,520,012,206	190,774,794
資産運用支出	1,200,000,000	299,778,000	900,222,000
その他の支出	3,344,903,745	3,259,665,878	85,237,867
[予 備 費]	200,000,000		200,000,000
資金支出調整勘定	△ 4,576,773,888	△ 4,848,123,595	271,349,707
次年度繰越支払資金	11,004,792,518	12,879,623,329	△ 1,874,830,811
支出の部合計	52,856,499,375	52,955,671,082	△ 99,171,707

資金収支計算書については、前年度より繰り越した資金(現金預金)が１１５．５億円でしたが、次年度への繰越資金は、１２８．８億円となりました。これは、帰属収支差額が予算比好調に推移していた中、今後の大型設備投資計画に備え、設備投資額を減価償却額の範囲内に抑制したことによるものです。

貸借対照表

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	54,675,336,535	54,899,816,597	△ 224,480,062
有形固定資産	52,984,410,114	53,189,581,262	△ 205,171,148
土地	15,455,231,332	15,440,731,332	14,500,000
建物・構築物	29,858,391,267	28,137,140,470	1,721,250,797
教育研究用機器備品	6,358,975,469	6,227,439,059	131,536,410
図書	1,037,975,477	1,033,510,733	4,464,744
建設仮勘定	102,606,900	2,138,109,500	△ 2,035,502,600
その他	171,229,669	212,650,168	△ 41,420,499
その他の固定資産	1,690,926,421	1,710,235,335	△ 19,308,914
教育施設設備等引当特定資産	258,111,346	458,111,346	△ 200,000,000
退職給与引当特定資産	399,783,556	400,005,556	△ 222,000
その他	1,033,031,519	852,118,433	180,913,086
流動資産	19,162,766,350	14,901,998,760	4,260,767,590
現金預金	12,879,623,329	11,549,343,602	1,330,279,727
有価証券	90,680,000	90,680,000	0
その他	6,192,463,021	3,261,975,158	2,930,487,863
資産の部合計	73,838,102,885	69,801,815,357	4,036,287,528

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	12,563,107,500	14,122,110,293	△ 1,559,002,793
長期借入金	6,392,425,000	7,898,295,000	△ 1,505,870,000
学校債	135,000,000	270,000,000	△ 135,000,000
退職給与引当金	5,984,254,413	5,885,223,413	99,031,000
長期未払金	51,428,087	68,591,880	△ 17,163,793
流動負債	7,864,977,769	4,917,934,013	2,947,043,756
短期借入金	1,612,563,549	621,345,314	991,218,235
学校債	140,000,000	10,000,000	130,000,000
前受金	1,105,604,036	1,079,163,500	26,440,536
その他	5,006,810,184	3,207,425,199	1,799,384,985
負債の部合計	20,428,085,269	19,040,044,306	1,388,040,963

基本金の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	89,197,624,523	87,102,441,794	2,095,182,729
第4号基本金	3,110,000,000	3,110,000,000	0
基本金の部合計	92,307,624,523	90,212,441,794	2,095,182,729

消費収支差額の部			
科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	38,897,606,907	39,450,670,743	△ 553,063,836
消費収支差額の部合計	△ 38,897,606,907	△ 39,450,670,743	553,063,836
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	73,838,102,885	69,801,815,357	4,036,287,528

※注記 減価償却額の累計額 40,808,245,444円
基本金未組入額 4,622,753,571円

資産のうち固定資産は、有形固定資産及びその他の固定資産合わせて５４６．８億円で、前年度対比やや減です。２２年度中に兵庫医科大学(病院含む)・兵庫医療大学の建物・構築物・機器備品関係で相応の投資をしましたので増加要因にはなりますが、一方で、減価償却、資産処分などを行いましたので、やや減となったものです。流動資産は、現金預金が１２８．８億円、短期有価証券が０．９億円等で、１９１．６億円です。

負債のうち固定負債は、学校債を含め、長期借入金の返済を進めており２２年度中に新たな借入れを行わなかったこともあり、退職給与引当金を含め１２５．６億円、流動負債は７８．７億円で、総負債は２０４．３億円です。
基本金は、当年度に２１億円の組入れ増加要因があり、基本金の部合計額は９２３．１億円となりました。

※財産目録や財務比率等を含めた事業報告書は、本法人の情報公開規程に従い、西宮キャンパス総務企画部総務課において、開示請求を受け付けております。



事務局長就任挨拶 事務局 坂元 譲次 〈4月1日就任〉

4月1日付で理事・事務局長を拝命いたしました。重責に身の引き締まる思いがいたしております。これまで文部科学行政の中でスポーツ・青少年教育行政に長く携わり、学校法人・大学の現場は初めてですので、少し戸惑いを感じているのが偽らざるところですが、就任にあたり一言ご挨拶申し上げます。

来年度、本法人は大学開学40周年の節目の年を迎えようとしています。この間、2007年には兵庫医療大学を設置し、医療系2大学を擁する学校法人としての地位を確固たるものにしてまいりました。さらに、医師国家試験、看護師国家試験などの国家試験の成績、科学研究費補助金の採択件数の増加など教育・研究の分野においても斯界において高い評価を得るようになってきております。

建学の父・森村先生の目指すところを汲み、後援会、同窓会、地域の皆様方のご支援そして脈々と引き継がれる教職員の弛まぬ努力、まさに、「累土不輟邱山崇成」(尼崎市立開明小学校長室掲額：中谷雲溪の詞)、この言葉の意味するところであると思います。「人への奉仕、人への愛、人への理解」という建学の精神を拳々服膺し、学校法人兵庫医科大学の発展のため精一杯努めたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

理事・評議員の異動

理事

再任	太城 力良	〔平成23年6月1日付〕	新任	西岡 清	〔平成23年6月1日付〕
	難波 光義	〔平成23年6月1日付〕			

評議員

退任	後藤 章暢	〔平成23年5月31日付〕	再任	三村 治	〔平成23年6月1日付〕
辞任	土肥 信之	〔平成23年5月31日付〕	新任	山田 明美	〔平成23年6月1日付〕
	土居 洋子	〔平成23年5月31日付〕		藤岡 宏幸	〔平成23年6月1日付〕
	谷口 真澄	〔平成23年3月31日付〕		竹田 千佐子	〔平成23年6月1日付〕
	金野 幸雄	〔平成23年3月31日付〕		宮本 一郎	〔平成23年6月1日付〕
				平野 斉	〔平成23年6月1日付〕

平成23年度 学校法人兵庫医科大学常勤理事の業務担当

職 名	氏 名	担 当
理事長	新家 莊平	総括
副理事長	波田 壽一	理事長補佐、情報、施設整備計画、危機管理担当
理事	中西 憲司	兵庫医科大学長
理事	松田 暉	兵庫医療大学長
理事	太城 力良	兵庫医科大学病院長、物流、地域医療担当
理事	福田 能啓	ささやま医療センター病院長、ささやま老人保健施設長

職 名	氏 名	担 当
理事	難波 光義	副院長、経営企画担当
理事	野口 光一	医学教育・研究担当、兵庫医科大学入試担当
理事	三村 治	広報、基金担当
理事	佐藤 禮子	兵庫医療大学副学長、2大学間連携担当
理事	馬場 明道	兵庫医療大学副学長、薬学教育・研究担当
理事	森田 泰夫	人事・財務担当
理事	坂元 譲次	事務局長、総務・コンプライアンス担当

規程等の制定・改正・廃止 (規程等の全文は学内ネットに掲載)

No.	項 目	制定・改正・廃止の趣旨	制定・改正・廃止日
1	兵庫医科大学自己点検・評価委員会規程	副学長職を職指定として委員会委員に加えるため改正。	平成23年5月17日
2	兵庫医科大学共同利用研究施設放射性同位元素等使用室放射線障害予防規程	放射線障害防止法施行規則の改正に伴い、受入先及び払出先に係る事項を追加し、放射性同位元素等の厳格な管理を行うため改正。	平成23年5月17日
3	兵庫医科大学就業規則	学校法人兵庫医科大学ボランティア休暇規程制定に伴い、条文の文言を合わせるため改正。	平成23年5月24日
4	兵庫医科大学病院放射線障害予防規程	放射線障害防止法施行規則の改正に伴い、受入先及び払出先に係る事項を追加し、放射性同位元素等の厳格な管理を行うため改正。	平成23年5月17日
5	薬剤師レジデント取扱内規	2、3年目を対象としたコースが、現行コース内容と相違があり、名称変更するため改正。	平成23年5月17日
6	血液浄化センター運営規程	以前から人工透析室として透析治療を行っていたが、現在では、透析治療に加え、消化器内科の白血球除去療法も実施していることから、「血液浄化センター」に改称し、病院組織(中央診療施設)として設置するため制定。	平成23年5月24日
7	血液浄化センター運営委員会規程	同上の運営を円滑に行うため制定。	平成23年5月24日
8	腎移植センター運営規程	慢性腎不全患者の増加に伴い、「腎移植センター」を設置するため制定。	平成23年5月24日
9	腎移植センター運営委員会規程	同上の運営を円滑に行うため制定。	平成23年5月24日
10	内視鏡センター運営規程	内視鏡検査について、より効率的運用等を行う「内視鏡センター」を設置するため制定。	平成23年5月24日
11	内視鏡センター運営委員会規程	同上の運営を円滑に行うため制定。	平成23年5月24日
12	超音波センター運営規程	超音波検査について、より効率的運用等を行う「超音波センター」を設置するため制定。	平成23年5月24日
13	超音波センター運営委員会規程	同上の運営を円滑に行うため制定。	平成23年5月24日
14	アイセンター運営規程	以前から、眼周辺の形成外科領域の手術も併せて行う眼科専用の手術室を設置し、病院組織(中央診療施設)として設置していたことから、専用手術室の運営及び眼科領域の病床の管理・運営を行うため制定。	平成23年5月24日
15	病院規程	中央診療施設に、アイセンター、血液浄化センター、腎移植センターを設置するため改正。	平成23年5月24日
16	兵庫医科大学ささやま医療センター就業規則	学校法人兵庫医科大学ボランティア休暇規程制定に伴い、条文の文言を合わせるため改正。	平成23年5月24日
17	兵庫医科大学ささやま老人保健施設就業規則	同上	平成23年5月24日
18	兵庫医療大学入学生・在学生特別奨学金規程	平成23年度から兵庫医療大学入学生及び在学生の成績優秀者を対象とする奨学金制度を設置するため制定。	平成23年4月1日
19	兵庫医療大学給与規程	兵庫医療大学大学院設置に伴い、大学院研究科長の役職位、役付手当について規定するため改正。	平成23年4月1日
20	兵庫医療大学入試センター長選考規程	未整備であったため制定。	平成23年4月19日
21	兵庫医療大学キャリアデザインセンター長選考規程	同上	平成23年4月19日
22	兵庫医療大学保健管理センター長選考規程	同上	平成23年4月19日
23	兵庫医療大学地域連携実践センター長選考規程	上記の3規程制定に伴い、既に制定されている本規程については条文の文言を合わせるため改正。	平成23年4月19日
24	兵庫医療大学就業規則	学校法人兵庫医科大学ボランティア休暇規程制定に伴い、条文の文言を合わせるため改正。	平成23年5月24日
25	兵庫医療大学期間契約雇用職員就業規則	兵庫医科大学における期間契約雇用職員に対する就業規則等が制定されたことに伴い、同一法人として、兵庫医療大学における同規程等を制定。	平成23年5月24日
26	兵庫医療大学期間契約雇用職員給与規程	上記制定に併せて、期間雇用職員給与規程も制定。	平成23年5月24日
27	学校法人兵庫医科大学短時間勤務正職員取扱規程	医師や看護師等が、出産後の家庭との両立のため、正職員としての身分を保全したまま、短時間による勤務形態を行える制度を設置するため制定。	平成23年4月1日
28	学校法人兵庫医科大学早期退職優遇制度取扱規程	兵庫医科大学及び兵庫医療大学の定年年齢と、ささやま医療センター及びささやま老人保健施設の定年年齢が異なるため、年齢・加算率を追加するため改正。	平成23年4月19日
29	臨床系教員に係る短時間勤務の取扱内規	「学校法人兵庫医科大学短時間勤務正職員取扱規程」が制定されたが、臨床系教員は定員枠の関係上、本制度が制限されることから、別途制定。	平成23年5月10日
30	兵庫医療大学大学院における大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に係る運用内規	兵庫医科大学病院から医療大学大学院へ進学する本法人職員の、病院業務との円滑な両立をはかるため制定。	平成23年5月10日
31	学校法人兵庫医科大学早期退職優遇制度取扱規程	優遇する年齢基準に誤りがあったため改正。	平成23年5月17日
32	学校法人兵庫医科大学ボランティア休暇規程	東北地方太平洋沖地震の発生によりボランティアへの意識が高まっていることを踏まえ、教職員対象のボランティアに関する特別休暇を設置するため制定。	平成23年5月24日

■ 兵庫医科大学 ■ 兵庫医科大学病院 ■ ささやま医療センター ■ 兵庫医療大学 ■ 学校法人兵庫医科大学

私たちの地域、 私たちのフィールド

西宮、神戸、篠山を中心に、観光スポット、イベント、歴史、ニュース、豆知識などを紹介します。

ノーベル賞受賞学者湯川秀樹博士が住んでいた西宮

日本人として初めてノーベル物理学賞を受賞した湯川秀樹博士が「中間子論」の着想を得たのは、西宮市の苦楽園に住んでいた時のことだと言われています。

湯川博士は、1934年、7歳で原子核を構成している陽子と中性子を結びつける粒子「中間子」の存在を预言する理論を発表。この研究が評価され、1943年に最年少で文化勲章受章を、1949年には42歳でノーベル物理学賞を受賞しました。

また、1955年にラッセルとアインシュタインが発表した、核兵器に反対する「ラッセル＝アインシュタイン宣言」に他の多くのノーベル賞受賞者とともに連署し、世界の科学者の平和運動の中心人物の一人としても活動しました。

博士の偉業を称え、西宮市の苦楽園小学校の校庭には「中間子論誕生記念碑」があります。この記念碑には、博士の著書「旅人」から「未知の世界を探索する人々は、地図を持たない旅人である」という言葉が刻まれています。



中間子論誕生記念碑

多彩人 “蝶を愛する”多彩人

皮膚科学准教授の夏秋 優さんは、蝶の生態を観察し、その姿や生息する自然の記録を続けている。少年の頃から昆虫が好きで、昆虫を採集しては図鑑で調べることに熱中し、毎日穴が開くほど昆虫図鑑を眺めていたほどだとか。

高校生になる頃には、採集よりもカメラを持ってその姿を記録することが活動の中心となり、その生態写真や観察記録は、専門誌などから寄稿依頼がくるほどの活動に。



カタクリで吸蜜するギフチョウ

また、日本特産の蝶であるギフチョウの行動を独自の方法で調査してまとめた論文は、海外を含め各方面か

ら高い評価を得たという。

そんなある日、大切にしていた撮影場所がダム建設と都市開発が行われることを知った。自然破壊を止めることはできないが、失われゆく美しい環境と蝶の姿を記録することが、その場所で撮影を続けてきた自分の使命だと感じ、連載を依頼された昆虫雑誌の創刊号から現在まで、在りし日の姿を記録し続けている。

連載は今年で13年目を迎え、次の号で50回目となる。『自然と人との係わりとは何かを考えてもらえるきっかけとなれば』と、その活動に思いを込めている。

『忙しい毎日の中で、自然と触れ合う時間を持つことが健康のためには大切。今後も時間と体力の許す限り、ライフワークとして続けていきたいですね』と語ってくれた。

兵庫医科大学
皮膚科学 准教授
夏秋 優さん

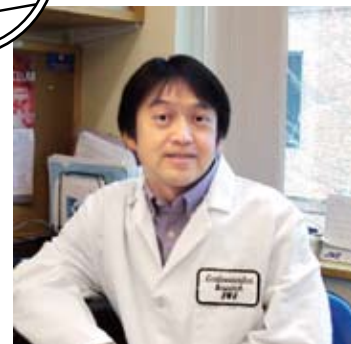


「撮影には必ず1人でいきます。良い写真を撮るためには、蝶と自然と自分の一体感が大切ですね」

さまざまな分野で才能を開花させている、極めている、アクティブに活動している“多彩人”の情報をお待ちしています。自薦・他薦は問いません。総務企画部広報課までご連絡ください。＜電話：0798-45-6655 メール：kouhou@hyo-med.ac.jp＞

SERIES
海外便り
第2回(全3回)

卒業生からのメッセージ



よしおか じゅん
吉岡 淳

略歴

平成6年 兵庫医科大学卒業
平成13年 大阪大学大学院医学系研究科博士課程修了
米国心臓核医学会若手研究奨励賞受賞
ハーバード大学医学部研究員
平成14年 米国心臓協会フェローシップ受賞
平成19年 ハーバード大学医学部インストラクター
平成20年 米国心臓協会サイエンティストデベロップメントアワード受賞
平成21年 ハーバード大学よりフランス国立保健医学研究所(INSERM)へ出向
平成22年 現職

Jun Yoshioka, MD, PhD, FAHA

Instructor in Medicine, Harvard Medical School

Associate Biologist, Department of Medicine, Brigham and Women's Hospital

海外での医学研究の実情について、我々日本の医師はアメリカやイギリスあるいはドイツの事はよく知っていても、フランスのそれについては些か馴染みが薄いのではないのでしょうか。私はハーバード大学に赴任して11年目になりますが、一昨年にはフランスの医学研究に携わる機会を得ました。そこで今回の「海外からのメッセージ」では、フランスの医学研究についてアメリカとの比較を交えて、少しでも私見を述べたいと思います。私がフランスに出向した目的は、あるフランスの財団が助成した心不全研究の多施設合同プロジェクト(ハーバード大学、ドイツのハイデルベルグ大学、フランス国立保健医学研究所)に、実務者として参画するためでした。フランス語のテキストや電子辞書を買って込んで3ヶ月間みっちりフランス語の勉強をしてからボストンを出発し、秋風の吹くパリのシャルル・ド・ゴール空港に降り立ちました。

医学研究におけるフランスとアメリカの構造的な違い

現在、日本では原子力問題でフランスの科学技術が注目されていますが、実はフランスの医学研究はここ数年、他の先進国に比べて少し立ち遅れているのではないかと囁かれています。事実、フランスからの医学論文の発表率は、2001年から2006年の5年間で約17%減少しました。その原因として公的研究費の配分方法など行政の構造上の問題が指摘されています。

例えばアメリカでは、研究者個人の自由な発想を重視するボトムアップ型の研究費配分法が中心で、これが科学研究の先端を切り開くダイナミズムとなっています。しかしながら、フランスでは国の科学振興政策に則って策定した、研究課題に基づく課題設定型の研究費配分を行ってきました。フランスの伝統とも言える中央集権のトップダウン式の政策は、アメリカの競争主義的なシステムに比べて、むしろ研究業績を律速させた原因の一つと言えるかもしれません。

左がハーバード大学の研究室で、右がフランス国立保健医学研究所(INSERM)の研究室。いずれも日本の設備とほぼ同様である。



フランス人の研究の進め方はむしろ日本人に近い？

国全体としてはやや低迷気味と言われるなかで、私が滞在したフランス国立保健医学研究所(INSERM)は、世界でもトップクラスの研究機関として有名です。緊張のなか始めたINSERMでの研究でしたが、パリの医師、研究者達は私を暖かく迎えてくれ、楽しく仕事をする事が出来ました。

ハーバード大学でこれまで多様な国の出身者と一緒に働いてきた経験から、私は研究者には3つのパターンがあると考えています。一つ目はライオン型で手を動かすのは最低限なのに議論好きで目立つタイプ(アメリカ人)、二つ目はセントバーナード型で実験室ではみんなと仲良く潤滑油の役割を果たすけれども、いつまでもお喋りばかりで仕事が進まないタイプ(イタリア人、ラテンアメリカ人、アフリカ人)、最後はフクロウ型で黙々と働くが、他人とあまり交流せず情報が偏るタイプ(アジア人)です。フランスに行く以前は、フランス人はライオン型だと想像していましたが、彼らの仕事の進め方を見ていて意外にもセントバーナードとフクロウの中間だという印象を受けました。また、アメリカ的な価値観にあまり惑わされない強みが、フランス人にはあるように思えました。この事は、先ほどの論文発表数に関連して例えると、ハンバーガーがいくら早くできて安かろうともフランス料理は違うのだというプライドを常に持っているという事です。このような意味において、フランス人の研究スタイルはアメリカ人よりもむしろ日本人のそれに近く、懐の深い印象を受けました。ところで、私の猛勉強したフランス語ですが、レストランで注文する時を含めほとんど役に立ちませんでした。

最終回となります次回は、今後、留学を希望される先生方や学生の皆様に、私なりのアドバイスをお送りしたいと思います。どうぞ楽しみに。



私の滞在した研究室は、パリ市内で2番目に大きい病院であるHopital European Georges Pompidouの研究棟にあった。



慰霊顕彰碑(兵庫医科大学5号館前広場)

医学教育、研究に大きな役割を果たす「解剖」のために、その身を呈された方々に感謝をささげ、御霊の平安を祈るとともに、その崇高なご芳志を讃えるための碑として、昭和61年10月28日に建立されました。

この碑は「祈り、感謝、鎮魂、奉仕、貢献」を主題として、インド産赤御影石でつくられた本体と名札格納箱が、小豆島産白御影石の台座の上に置かれ、柔和な温かい形と色合いで表現されています。

建立当時、碑の背景はできるだけ緑濃い茂みにしたいとの意向から、クスノキを主に、ヤマモモ、サザンカが配されました。現在ではその当時の意向通り、青々とした茂みにつつまれ、茂みからこぼれる木漏れ日を受け、静かにたたずんでいます。

学校法人兵庫医科大学

建学の精神

社会の福祉への奉仕
人間への深い愛
人間への幅の広い科学的理解



兵庫医科大学



兵庫医科大学病院

〒663-8501 兵庫県西宮市武庫川町1番1号
TEL:0798-45-6111(代)
<http://www.hyo-med.ac.jp/> (大学)
<http://www.hosp.hyo-med.ac.jp/> (病院)
<http://www.corp.hyo-med.ac.jp/> (法人)



兵庫医療大学

〒650-8530 兵庫県神戸市中央区港島1丁目3番6
TEL:078-304-3000(代)
<http://www.huhs.ac.jp/>



兵庫医科大学
ささやま医療センター

〒669-2321 兵庫県篠山市黒岡5番地
TEL:079-552-1181(代)
<http://www.sasayama.hyo-med.ac.jp/>